

息子との二人旅

中 村 祥 二 (春秋会)

はじめに

我が家には、3歳になったばかりの息子がおります。この年齢くらいがいちばん可愛い時期だと世間では言われておりますが、我が子は妻にばかり甘えており、父親である私に対しては可愛くない態度をとる場面が多くあります。そんな息子と二人で私の実家に帰省する機会がありました。

出発前

当初、家族全員で帰省する予定でした。しかし、妻が夏風邪をひいてしまったため、急遽、私と息子の二人で帰省することになりました。

息子には、「お母さんが風邪で行けないけど、もうすぐ3歳だから大丈夫だよ。」と念を押してから出かけました。というのも、息子は朝起きるときや夜寝るとき、お風呂や歯磨きは、母親である妻と一緒にいなければ泣き叫ぶほど、母親にべったりなため、この旅行は結構大変になると予想したからです。

妻は、初めて息子を旅に出すことへの寂しさか、それとも夫の身にこれから起こるであろう苦労を案じてか、非常に心配そうでした。



電車の旅

実家への帰省といっても、電車を使って1時間30分ほどで着く場所です。息子は電車が大好きなので、電車での移動に心配は無用です。終始上機嫌で実家の最寄り駅に着きました。

車窓から

砂浜でのバーベキュー

実家に着くともう昼過ぎです。兄の一家も揃い、皆で海岸の砂浜にバーベキューをしに出かけました。はじめのうちは、息子は機嫌良くバーベキューの準備を手伝っていました。しかし、バーベキューコンロの炭に火がつき、いよいよ肉を投入という段階になって、空の雲行きが怪しくなり、雨が降り出しました。そうすると息子の様子は一変。「ママがいいのー(涙)」といつもの息子に早変わり。雨が止んでも息子を抱っこし続けるはめになりました。



雨でテンションが下がる息子

そのくせ、息子は家に帰ると元気が復活。実家の中を探検しまくっていました。さっきまでのテンションの低さは何だったのか。

花火大会

その夜は、地元の花火大会です。花火を見に再び海岸に行きました。そして、初めは花火大会を砂浜に座って普通に見ていたのですが、連発の花火の音にビビったのか、「どどーんって怖いのおお。」と言出し、小さな手で目を覆います。私はまたもや息子を抱っこし、二人で早々に退散。見物客で満員の砂浜を後にしました。



花火の様子



目を覆う息子

入浴～就寝

普段、「入浴して歯を磨いて寝る」という一連の行為は母親である妻が担当します。というのも、私がやろうとすると「パパは嫌なの！ママがいいの。」と拒否されるためです。

しかし、今日は妻がいません。そのため、今夜は拒否されないだろうと高をくくっていました。しかし、その考えは甘かったのです。

まず、お風呂。「パパとはお風呂一緒に入らない！」と言い出し、「おじいちゃんに入る。」と……。妻だけでなく、自分の父にも負けてしまった。

この調子では、歯磨きも寝るのも拒否されてしまう！と焦りましたが、何とか歯磨きは言うことを聞いてくれました。

しかし、寝るときになると、ついに「ママがいいからお家帰る。」と言い出しました。そこでワイルドカード登場。妻に電話して、妻から言い聞かせてもらい何とか床についてくれました。

翌朝

翌朝は、天気も良く、息子は元気いっぱいです。どうやら明るいうちは、妻ではなく私でも十分に息子の心の隙間を埋められるようです。

そして、海水浴に出かけました。去年は、波打ち際できゃっきゃと楽しんだので今年はずっと楽しんでくれるだろうと思っていたのですが、海岸に着くとテンションが低く、砂浜に敷いたビニールシートに座って、砂をほじっているだけです。

そのうち、私の父（息子にとっての祖父）が小さな蟹を捕まえてきて息子の足元に落とすと「ぎゃー！！！」と、これまでに聞いたことのない大声で息子が叫び、さらにテンションが下がりました。そのため、またもや抱っこして、そそくさと退散。

息子にとって、今年の海は、「雨」「花火の音」「蟹」と試練の多い思い出になったようでした。

帰宅

昼過ぎには帰路につき、無事に帰宅しました。



帰りの電車待ち

男二人旅で息子がたくましくなったことに期待していた妻でしたが、その期待は外れ、「ママがいいの！」とさらなる甘えん坊にパワーアップしていました。

おわりに

息子との帰省で、やはり、息子はまだまだ母（妻）に甘えたいんだなあつくづく感じました。しかし、このままでは単なるマザコン野郎になってしまう。そのうち、「ママは嫌なの。パパがいいの！」と言わせてやるぞ、と来年に向けて作戦を練るのでした。

地方の時代へ

橋 浦 雄 介 (春秋会)

1. はじめに

私は、弁理士を目指すと同時に将来は仙台で仕事をするのが目標でした。しかし、現状では特許出願が余り多くなく、仙台で経営している特許事務所は10数カ所で規模も小さい事務所ばかりです。特許の仕事が少ない理由として仙台では、企業の支店や工場が多く、大手メーカーの本社がほとんどありません。大手企業は、東北電力やアイリースオーヤマ（プラスチック製品）の本社があるくらいで、特許・知財部を有するメーカーが少ないためと考えられます。東日本大震災が起これ、仙台を中心に宮城県、東北地方で知的財産を保護することにより、震災復興に貢献していきたいと考えるようになりました。

2. 東日本大震災

2011年3月11日は、2度の揺れが来て事務所の机の下に隠れました。東京勤務だったので、関東大震災かと思っていたら震源が宮城県と聞き顔面蒼白になりました。宮城県沖地震は2歳の時に起こり記憶にありませんが、30年周期で3回に1回の周期で大きい地震が来ると聞いていました。今回は大きい地震が予想されていたので、遂に来たかと思いました。仙台の家族と連絡がつかず、夕方に事務所を出て2時間歩いて帰宅しました。途中家族と連絡が付き無事が確認できました。テレビを見ると祖父の出身地である名取市に巨大津波が来て、海水浴に行った気仙沼が火の海になっていました。仙台市若林区に200名の遺体が発見されたというニュースは衝撃的でした。

2月後のゴールデンウィークに帰省し、東松島市や石巻に行きましたが、瓦礫が多く空襲後のようで津波の破壊力に衝撃を受けました。海沿いは広範囲に渡り津波の被害を受けていたので、復興には時間

が掛かるだろうと思いました。祖父の出身地である名取市閑上（ゆりあげ）にも行きましたが家はほとんど流され、橋浦家の墓も含めほとんど墓石が倒されていました。祖父の弟一家が閑上に住んでいて家は流されましたが、若い夫婦は職場にいて助かり、祖父の弟は交通事故で病院に入院していて、奥さんもお見舞いに来ていたので幸運にも助かりました。まさに、人間万事塞翁が馬です。

震災から半年後の夏休みに帰省した時は、瓦礫が取り除かれていたので、見た目には、落ち着いていました。しかし、名取市閑上にある日和山からの景色はほとんどの家が流され何も無い状態で悲しいのと同時に、日和山には震災復興祈願ののぼり旗が多数立てられていたので、復興を強く願いました。

3. 企業誘致と自動車産業の集積

時期は戻りますが、現在2期目の村井宮城県知事が企業誘致を促進する政策により、トヨタ自動車や東京エレクトロンなどの企業が宮城県に進出することが決まりました。仙台でも特許の仕事が増えるかもしれないという希望を抱いていたなら、リーマンショックが起こってしまい、企業の宮城県進出がスローダウンしてしまいました。その後、東日本大震災が起これ、希望がさらに遠のいて行きましたが、震災復興を合い言葉に企業の進出が加速的に推進されました。今年7月には、トヨタ自動車東日本（本社：宮城県大衡村）が設立され、東北電力に次ぐ東北第2位の企業が誕生しました。現在、東北6県による自動車産業の集積が進められ、企業と東北大が協力して研究開発が盛んになってきています。産官学の協力体制が整ってきているので、日々大きな期待を抱いております。

自動車産業の集積が進んで、何百以上の中小企業

が参入することになり、自動車産業を発達させるために、弁理士が特許を保護していくことが重要な役割と考えます。最近、東京の特許事務所で仕事をしていて感じることは、国内企業の出願件数が減少し、企業の外注件数も減少しています。現場に出向いて発明抽出をする能力を身に着けることが重要になってくると考えます。今後、東北地方では、自動車関連発明が多数出ることが予想されるので、東北地方での弁理士の活躍できる機会が増えていくと思います。

私は大学院時代にMEMS(Micro Electro Mechanical Systems)の研究をしていました。東北大にはMEMSの権威である江刺教授がいます。江刺先生とはオーストラリアの国際学会でご挨拶したことがありますが、産業界に貢献されているので、尊敬しています。MEMS技術は、トヨタ自動車の安全装備やLSIテスターなどに用いられ、インクジェットプリンターや医療分野に使われています。この関連分野の発達に貢献できたらと思います。

4. 震災復興支援

ツイッターで知り合いになった弁理士の先生方と復興支援の意見交換をする機会が何度かありました。議論をするといろいろな意見を聞くことができるし、新たに気づくこともあるので有意義と考えています。他の2名の先生は、弁理士会の復興支援の委員会に所属され、岩手県で開催された知財相談会にも参加されているので、素晴らしいと思います。弁理士会では、復興支援の委員会があり、ツイッターでも弁理士会の復興プロジェクトのアカウントがあります。このように、弁理士として復興支援に係わる機会は少なからずあるので、多数の弁理士の先生方が参加して頂ければと思います。

今年4月に、仙台いちごが地域団体商標の登録500件目で特許庁から表彰されていました。私は恥ずかしながら仙台いちごの存在を知りませんでした。東日本に出荷され、周知であることは事実のようです。津波の被害により産地の94%が破壊的な被害を受けてしまったので、地域団体商標が仙台いち

ごの復興に役立つことができれば良いと思います。

また、福島県では放射能の風評被害に相当苦しんでいて、農業や漁業が大ダメージを受けているので、地域団体商標や周知の要件を満たさない場合でも商標で保護することにより、販売を促進できないか考えています。私の母親は福島出身で親戚も多数福島にいますし、私も福島で生まれ、2歳まで福島で育ったので、福島は第2の故郷です。福島県は今後、復興が大変であると思いますので、知財で貢献していければと考えています。

私の趣味はスポーツ観戦ということもあり、スポーツ選手が復興支援に頑張っている姿を見て何度も感動しました。Jリーグではベガルタ仙台が優勝争いをし、デルピエロを招待した復興支援マッチではベガルタ仙台の選手が活躍しました。来年の復興支援マッチでは、香川選手が加入したマンチェスターユナイテッドの招待が計画されています。プロ野球では東北楽天を応援していますが、オールスターゲームが3年連続で宮城、岩手、福島で開催されています。高校野球では光星学院(青森県八戸市)が3大会連続準優勝で、東北勢の初優勝はなりませんが、頑張ってくれました。オリンピックでは卓球の福原愛ちゃん、気仙沼出身で亡き友のために戦ったフェンシングの千田選手やレスリングで八戸出身の伊調、小原選手など東北出身選手の活躍に感動しました。

5. 今後の展望

現在、宮城県では情報産業、新エネルギー産業、医療産業の企業誘致が進められ、これらの分野の研究開発も盛んになってきています。このまま産官学が連携して産業の発達に貢献していけば、地方での弁理士の活躍の場が広がると思います。今後、大手特許事務所のブランチ化が進んでいくことも予想されます。弁理士が地方で活躍し、多数の発明の保護に係わることにより、新しい産業のイノベーションにも繋がるのではないかと思います。東北地方の産業が発達し、雇用が促進されれば、震災復興に貢献できると考えています。

二次会幹事

井 伊 正 幸 (春秋会)

1. はじめに

先日、大学時代の友人の結婚式があり、その二次会の幹事を務めました。これまで結婚式二次会には何度も参加したことがあるものの、幹事として参加したのは初めてのことで、なかなか良い経験でした。今回は二次会幹事の仕事について書こうと思います。

2. 幹事の依頼

友人（新郎）から結婚式の連絡と二次会幹事の依頼があり、特に何も考えずに二つ返事で引き受けました。そして後日、新郎から依頼を受けた男性2名、新婦から依頼を受けた女性2名および新郎新婦の6人で顔合わせを行いました。この段階では日程と招待人数が決まっているだけで、具体的な話しはせず、アレをやろうコレをやろうと実現性はさておき盛り上げていたのですが、会の終わりに依頼者である2人に食事代を支払われてしまい、しっかりやらざるを得なくなったというわけです。また、今回は日程と招待者以外は全てお任せしたいとのことでした。

3. 会場決定

顔合わせではいい加減な話ばかりしていたものの、幹事同士で連絡を取るためのメーリングリストを作成していました。しっかり者の女性幹事がiPadを持参しており、その場で作成しておこうということになっていたのです。そして、せっかく作成しておいたにも関わらず、皆ほとんど受信メールを確認していなかったというすったもんだを経て連絡を取り合い、会場を決定しました。今回は100人以上の参加者が予定されていたため、ある程度広めの会場にならざるを得ないのですが、どこからでも主役の2人が見やすいという条件を重視しました。

4. 招待者の出欠管理

日程と会場が決まると、次は招待者に案内を出します。先ほど会場を決定したと、さも自分で見て回ったように書きましたが、実際には女性幹事に丸投げをしておき、私は何もしていません。ここから私の担当でした。

案内と出欠管理には、結婚式二次会の支援サービスを利用しました。このサービスは、今回の二次会用に専用のホームページとメールアドレスを作成し、招待者にメールで一斉に案内を行い、ホームページで受付を行うというものです。招待者は受信メールに記載されたURLからホームページにアクセスして出欠を入力することができ、管理者は管理者用サイトから入力された結果を確認することができます。あらかじめ招待者の連絡先としてメールアドレスを預かっていたため、このサービスを利用すれば簡単にできると思っていたのですが、実際には結構な手間がかかりました。その理由は、受信拒否設定等によりメールを受信できない人がかなりの割合でいたためです。このうち送信したメールに対して受信拒否等によってエラーメールが返ってくる場合はまだ良いのですが、問題はエラーメールが返ってくることなく受信拒否されている場合です。この場合には、招待者にはメールが届いていないにも関わらず、こちらではその事実が把握できないために案内済みであると判断してしまうからです。そのため、結局は出欠の連絡をもらえていない人に対して、案内が届いているか否かと出欠について個別に問い合わせを行うこととなってしまいました。

5. ゲーム

結婚式二次会では様々なゲームが行われますが、今回はウェディング宝くじというゲームを企画しま

した。これは、事前に抽選番号が記載された抽選券を参加者に配布しておき、新郎新婦に番号が記載されたカードを引いてもらうことで当選番号を決定するというものです。このゲームの優れている点は、ビンゴ等とは違い、順位が低い順に当選発表ができることです。そのため、終盤になるにつれて盛り上がるという流れにできたのではないかと思います。

6. サプライズ

こういった会には何らかのサプライズを用意せねばならないという使命感のもと、各参加者には事前に自分の写真と2人へのメッセージを送付してもらうように依頼し、集まった写真とメッセージからメッセージビデオを作成して当日上映することにしました。当初は協力してくれる参加者がどれだけいる

のか不安でしたが、新郎新婦の人柄のおかげで、最終的にはたくさんの方に協力してもらうことができました。そして、友人に編集してもらったメッセージビデオは、当日まで新郎新婦に知られることなく上映されました。ニヤニヤしながら見ていたので、喜んでもらうことができたのではないかと思います。

7. おわりに

当日は出席していた友人たちの手助けもあり、しっくり盛り上がり終えることができたように思います。後日打ち上げの席で、新郎から出席した会社の同僚に良い二次会だったと言われたと聞き、肩の荷が下りたような気分になるとともに、幹事をやれてよかったなと思えました。



二輪 ～two wheels～

荒井 滋 人 (春秋会)

・はじめに

今年の初め、私は普通自動二輪の免許を取得しました。今回はそこに至るまでとそこに至ってからのことを書き綴ろうと思います。

・流行に逆らわずに乗った口述落ちからの再会

私は平成22年に最近流行の口述落ちを難なく体験しました。途方に暮れる中、なぜかappleのiTunesでアニメ「湘南爆走族」と再会してしまったのです。皆さんはご存じでしょうか。この作品を。要は暴走族の漫画なのですが、ギャグ漫画に匹敵するほどの笑いがあり、かっこよくておもしろいという一石二鳥な内容なのです。私は中学生のときに夢中でこの作品を読んでいました。まさかこのタイミングで再会するとは思っていませんでしたが、今でもやっぱりおもしろかったです。後にDVD化されたようで、それを迷わずiTunes上でレンタルして観てしまった私は、「合格したらバイクに乗りたい！」と誓ってしまいました（暴走族になりたい！ではありません。念のため。）。そしてPCの壁紙をバイクの画像にして、それを見ながら試験勉強にいそしんでいました。

・フライング気味の免許取得

口述試験が無事終わり、合格発表までの約3週間、私は悶々としていました。合格したらバイクに乗るんだと誓っていたので、合格が分かるまではバイクに乗れません。しかしながら私は重大なことに気づきました。免許がない！これじゃあ合格したとしてもバイクに乗れないじゃないか！ってことで、誓ったのはあくまで合格後に「自分のバイクを所有して乗る」ってことで、免許取るのは別に合格後って誓っていないという大義名分を掲げ、教習所に直行して申し込みをしてしまいました。

・踏んだり蹴ったりの教習所

普通自動車の免許は持っていますので、バイクに

関しては実技講習がメインでした。バイクには向き不向きがあり、いつまで経っても免許を取れない人もいると聞いていたので、最初は緊張しました。「跨いでみてまったく乗れなかったらどうしよう。」とか考えていましたが、なんとかバランスを取って乗れそうなレベルだったので、少し安心しました。

教習中に見事弁理士試験に合格し、ますます免許取得に熱が入りました。周りからは「あんたほんとに試験が好きだね～」と言われっぱなしの毎日でしたが、仕事前や後の時間を利用して教習所に通い続けました。職場で疲れ切った後に教習所で教官から罵声を浴びせられながら慣れもしないバイクに跨がる。そんな恍惚な日々が続きましたが、何とか年末に卒業検定を受けられるように間に合わせる事ができました。

検定前、受験者は一列に並べられ、生年月日と名前を一人ずつ言わされます。なんとなんと、昭和生まれは稀。「しょうわよんじゅう・・・」とか言うと、並んでいる皆さんがこっちを見て、教官も帳簿から顔を上げてその風貌を確認してきます。この日の検定は年内最後の検定とあり、これで落ちたら年始まで間が空いてしまうので感覚を忘れてしまいます。それは絶対避けなければならないし、教官もそれを分かっているので割と採点も甘めだったような気がします。そして、年内最後とあり受験者は20人～30人ほどの多数がいたのですが、不合格者は昭和生まれの私一人でした・・・。

検定種目に一本橋というのがあるのですが、幅30cm、長さ15mを7秒以上かけて渡らなければなりません。練習では9秒台をたたき出し続けていたのですが、なぜか検定本番で脱輪してしまいました。脱輪は一発不合格です。弁理士試験合格が吹っ飛ばすような不合格をその年末に体験してしまいました。

嫌なことは去年においてきて、年が明けた平成24年、一発目の検定を受けました。一本橋に恐怖感を覚えてしまった私は、7秒以上かけて渡ることを捨

て、なるべく早く渡りきってしまう作戦にしました。脱輪するとその時点で不合格ですが、秒数が早いことは減点で済むからです。年始と言うことで受験者は10名ほどと少なかったです。うち、合格者6名に名を連ねることができました。一本橋は予定通り減点でしたが。。

・バイク購入、のはずが・・・

無事に普通自動二輪の免許を取得し、さあこれで大手を振ってバイクに乗れます。バイク雑誌を読みあさる日々。ライダーズジャケットはなぜか家にあつたのでライダーブーツやらヘルメットやらを買い揃える日々。弁理士の実務修習では周りから「今日バイクで来たの？」と質問されるほどの格好で電車に乗っていました。

そしていよいよ。家族会議の日です。そうです。免許の取得は了承が得られたものの、バイク購入の了承は家族から得られていません。以下、家族会議の一部始終を記載します。

バイクカッテイ? (人`▽`), ☆.。.:*
 ゲーム (`×`)
 が——Σ(㏒ |||)——!!

私は種族としては丘サーファーに近い電車ライダーとして生きていくことを決意しました。

・無理矢理な転換期

部屋に置物として飾ってあるヘルメットを愛でる毎日を送っていた私に、またもや不幸が訪れました。通勤で使用している自転車の故障です。この自転車も長く乗っていたので、いよいよガタがきたみたいです。「買うかあ。。。」同じ二輪ならバイクを買いたかったのですが、私は渋々自転車を買に行きました。そこで出会った自転車、いや、これはバイシクルと呼ぶにふさわしい、ロードバイクに一目惚れしてしまいました。バイク購入のために貯めた資金はうっぶん晴らしなのか、これにつぎ込まれてしまいました。

・夜な夜な「にわかサイクリスト」

自転車は平日に夜な夜な乗っています。そこで思ったことは、自転車も楽しい！噴き出る汗は尋常じゃないし、今まで体感したことのないスピードが出

ます。乗っているうちに自分の距離感がおかしくなります。自転車でいける範囲というのが自分の中でどんどん広がっていくような気がします。高校生のときに原付免許を取ったとき、「これがあれば道の続く限りどこへでも行ける」と思いましたが、まさにそんな気分になりました。今では休日にも時間を作って乗るようにもなりました。

・ネタだけのためのレンタルバイク

いや、そりゃ自転車も楽しいですよ。でもさんざん冒頭で自動二輪の話をしておいて、最後は「イヤー、自転車って、本当にいいものですね」ではバイクの神様に怒られてしまいますよ。ってことで、本原稿執筆のネタと理由をこじつけてバイクをレンタルしてきました。

半年以上ぶりに跨がるバイク。何とか運転の仕方は覚えていました。そして感じたことは、バイクも楽しい！数十年ぶりに「ひゃっほー！」を自然と口走っていました（いや、初めて口走ったことにしておきます）。初の公道デビュー。震える身体に響く鼓動、恋はいつまでもし続けていきたいものですね。

・笑顔という名の笑顔

こうして二輪に触れる機会が今年が多いわけですが、自動二輪だろうが手動二輪だろうが、乗っているときは爽快すぎて笑顔がこぼれてきます。自転車に乗っているときは今の自分の笑顔になれます。バイクに乗っているときはあの頃の自分の笑顔になれます。表現がいまいちでしたが、この短い間に微妙に違う二つの笑顔を体験できました。正直弁理士合格のときは笑顔というより安堵の表情しか出てこなかったもので、その分まで大笑いしてやりました。とにかく二輪はすばらしい！



両刀使いでもいいじゃないか。



独立開業

角田 朗 (稲門弁理士クラブ)

1. はじめに

今年の1月から独立開業し、年末で1年を迎えます。最近是国内の特許や商標の出願が減る一方、弁理士試験の合格者は増加しており、独立開業は無理と思われる方もおられるかもしれませんが、もちろん1年前は、うまく行くのか不安も色々ありましたが、まあ何とかなっています。

私は特許調査とその関連業務である鑑定や情報提供等を仕事としており、出願権利化業務は全く行っておりません。少し見方を変えると、侵害予防の調査、無効資料の調査といった権利化後の業務を担当しているとも言えます。

2. 自分の略歴

私は大学院で理論系物理化学を専攻した後、電機メーカー等で、主に半導体デバイスの研究開発を行っていました。

その後、母の病気もあり千葉県にUターンしましたが、近くに半導体関連の研究所等はなく、やむなく？特許調査会社に就職することにしました。35歳の時です。弁理士試験勉強を始めたのもこの頃です。特許関係の仕事であれば、エンジニア経験を生かせ、都内で仕事が見つかりやすいという、どちらかというところ消極的な理由からでした。

この時、特許事務所へ就職することも考えたのですが、コンピュータを使って調査することが向いていると感じたこともあり、特許調査会社へ入社しました。もし、この時点で特許事務所へ入所していたら、今も事務所に勤務し出願権利化業務を担当していたはずで、独立開業はしていなかったでしょう。つまり、この時の選択が人生の分岐点だったことになります。

調査会社に数年勤務した後は、大手特許事務所の

調査部門へ入所し、調査を担当する傍ら、顧客向けセミナーの講師も担当しました。部門の弁理士が自分一人だったため、講師の仕事はほぼ全て引き受けることになりました。

3. 独立開業のきっかけ

独立開業すれば、経費を除いた収入はすべて自分のものになります。独立の動機は収入と思われる方も多いかもしれませんが。収入増を期待しない訳ではありませんが、一定以上の収入があれば、それ以上の収入増はモチベーションにあまり繋がらないものです。

動機は別のところにあります。事務所の同僚は特許法、審査基準等を理解しないで、侵害予防の調査や無効資料調査という権利関係の仕事をしているように見えました。しかし、事務所の調査サービスでは鑑定的な判断も期待されます。法律や判例の知識は必須です。そのようなサービスを提供するには、自分が独立してやらなければと思いました。

4. 独立開業後

今年1月に開業しましたが、2月になると依頼が来るようになり、年度末の3月はほとんど休みのない状況でした。4月、5月はあまり仕事が多くありませんでしたが、その後はますます仕事が増えて、土日に仕事をする場合もあります。人も採用しました。

特許調査担当で特許に詳しい方は少ないため、当初はひよっとしたら上手く行くかなという程度だったのですが、予想以上に依頼があり驚いています。知り合いが紹介や依頼をして下さることもあり、大変感謝しております。

日弁や稲門の人脈を生かすのはもちろん、懇親会や交流会にもできる限り参加して知り合いを増やす

ようにしています。いくら実力があっても、名前を知られていなければ受任に繋がりませんので。

もちろん良いことばかりではなく、お客さんへ調査結果を納品してから実際にお金を頂けるのは1ヶ月以上後のため、資金繰りに頭を悩ませることもあります。懇親会やデータベース使用料も意外と出費がかさみます。実務と営業との両立も難しく、今のところ訪問営業はほとんど出来ていません。

5. 終わりに

日本企業も権利を積極活用する時代となり、今後は権利化後の業務を担当する弁理士が増えてくると思います。弁理士が出願権利化以外でも活躍する時代が来ていると感じています。

以上



音楽がくれたもの

荒 木 淳 (稲門弁理士クラブ)

1. はじめに

ギターとの出会いは、中学2年生の夏であった。

その当時は、好きなギタリストであるVan HalenやSteve Lukather (TOTO) がデビューした年齢で、同じように華々しくスポットライトを浴びることを夢見て、練習に励んだものである。そう、一年に一度の文化祭で女の子の注目を集めるために頑張ったことは言うまでもない。

その後、才能がないことはさることながら、お酒も飲まず、タバコも喫めず、12時になると眠くなるため、まったくロックミュージシャンとしての素質を備えていないことに気付き、将来の方向転換を余儀なくされ、現在弁理士として、日々奮闘している。

いまや28歳を迎え、デビューどころか、Jimi Hendrix、Janis Joplinといった夭折したミュージシャンの生涯よりも長生きしていることになる。

天界のアポロンに愛されることもなく、現世で平凡に生活している私であるが、会員だよりに投稿する機会を頂いたので、趣味としての音楽について、取り留めもなく書かせて頂く。

2. 人との繋がり

音楽は、私に生活費こそもたらすことはなかったが、貴重な人間関係を与えてくれた。

多感な時期を共に過ごし、いまでも毎年旅行に行く中高時代のバンドメンバーやメンバーでこそないが私達の活動を応援してくれた同級生はかえがいのない友人である。この当時は、四六時中ロックであった。X JAPANに始まり、Deep Purple、Van Halen、Guns N' Roses、Journey等のコピーに明け暮れた。選曲が古すぎて女の子に受けなかったのは言うまでもない。

大学時代には、ヘッドバンギングの脳への影響が怖くなり、ロックを離れ、フュージョンを演奏するサークルに所属していた。なお、フュージョンとは、ジャズに、ロックやファンク、ラテンなどを融合させた音楽であり、決して、音楽的才能に溢れた人物とドラゴンボールの技を決めることにより、その才能に肖るわけではない。このサークルには、当時西

暦2000年も迎えたというのに、30年程昔に流行ったジャンルを黙々と演奏することに楽しみを見出す個性的な(変な?)人々に溢れていた。常識にとらわれないサークルメンバーは、自分の枠を壊し、拡げてくれた貴重な友人である。

そして、現在、仕事の傍ら、1つのバンドに所属し、細々と音楽活動を続けている。このバンドは、人によっては孫もいるというパワフル団塊世代フュージョンバンドである。音楽の趣味が共通していたこともあり、ひょんなことからこのバンドに参加することになった。音楽が、普段の生活で接点のない方々と私とを結びつけたわけである。同世代にはあまり受けないフュージョンの経験が、オジ様オバ様に受けたのである。

また、仕事においても、演奏好きの海外代理人とセッションをしながらお酒を酌み交わす機会に恵まれた。重要なビジネス上の交渉を担える立場にない若輩弁理士である私が、このような場で楽しい時間を共有させてもらったのも、音楽があったからこそであった。世代・国籍が違っていても、“好き”、“楽しい”、“心地良い”といった人間の根源的な部分(心)で通じ合えたことは、とても豊かな気持ちにさせられた。これも感情を体現する音楽の好みに共通性があったからこそであり、洋楽を教えてくれた父に感謝である。

3. おわりに

私のこれまでの音楽人生を振り返ってみると、中高時代の音楽が、海外代理人と結びつけ、大学時代の音楽が、現在の社会人バンドと結びつけたことになる。当然、その当時には、将来のことを知る由もない。しかし、夢中になってやったことは、将来の自分の生活を豊かにしてくれていることに気づかされる。Steve JobsによるStanford大学での卒業式式辞が思い起こされる。“You can't connect the dots looking forward; you can only connect them looking backwards. So you have to trust that the dots will somehow connect in your future.”との言葉を胸に、今後も音楽を続け、豊かな人間関係を築いていければと思う。

バンダービルト大学ロースクール留学記

木下謙吾 (稲門弁理士クラブ)

■はじめに

2011年7月から1年間、テネシー州ナッシュビルにあるバンダービルト大学ロースクール(VULS)に派遣留学させていただいた。留学自体は珍しいことではないかもしれないが、ナッシュビル、VULSはまだ日本ではマイナーなので、この機会に宣伝させていただこうと思う。

■ナッシュビル

ナッシュビルはテネシー州の州都で、周辺人口100万人程度の中規模都市である。人々は親切で、敬虔なクリスチャンが多く、治安もよい。南部は黒人が多いのでは?と思う方もいるかもしれないが、ナッシュビルは白人のほうが多い。日産自動車(株)や(株)ブリヂストンといった日本企業も進出しているが、まだまだ日本人は珍しいようだ。街は緑にあふれ美しく、住宅街の雰囲気はさながら高原の別荘地のようなであった。冬の寒さも北東部の都市ほど厳しくないし、概して過ごしやすい気候といえる。田舎と思われるかもしれないが、ショッピングモールやスーパーは充実しているし、日本食材店もある。レストランやカフェも多いので、日々の生活には困らなかった。



住んでいたアパートのエントランス

また、ナッシュビルはカントリーミュージックの中心地であり、「Music City」と呼ばれている。ギターメーカーのGibson社の本社もあるし、Music Rowと呼ばれる通りには、歴史のあるレコーディングスタジオが軒を連ね、また、著作権管理団体の事務所もある。ダウントウンには歴史のあるコンサートホールもあり、ライブが聞ける飲食店も多く、カントリーのみならず様々なジャンルの音楽を気軽に聴くことができる。音楽好きにはたまらない街である。

■VULS

VULSは、会社法、知的財産法、国際法などに強みを持つ、1874年創立の私立の名門校で、かつてアル・ゴア氏も在籍していたそうだ。ロースクールとしては比較的学生の数が少ないため、アットホームな雰囲気がある。事務員も親切で、図書館も充実していて、バックアップ体制は万全である。ついでに言うと、国立植物園として指定されているくらい、キャンパスが美しく、環境は申し分ない。



ロースクールの秋の風景

また、様々なイベントがあり、地元の方と交流する機会も多い。私も、知り合いになったご夫婦の自宅にお邪魔して一緒にサンクスギビングやクリスマスなどの休暇を過ごす等、文化交流を楽しんだ。

■余暇

普段の休日は、ライブを見に行ったり、アンティークショップめぐりをしたり、ファーマーズマーケットに行ったり、シーズンにはアメリカンフットボール (Tennessee Titans) やアイスホッケー (Nashville Predators) の試合を見に行ったりして過ごしていた。私はテニスが趣味なのだが、学生は設備の整った大学のコートが無料で借りることができる。周りには釣り、ハイキング、ゴルフを楽しむ人もいた。動物園など、子供が遊べる場所やイベントも多い。都会に比べると娯楽は少ないかもしれないが、ゆっくりとした時間が過ごせる。

また、カリブ海にアクセスし易いので、長期の休

みにはカリブの島に行ったり、クルーズ船に乗ったりする人も多い。ナッシュビル国際空港からは、カリブのアルバ島、メキシコのカンクンへの直行便が出ているので、私もこれを利用して旅行した。他にも、学校が休みの時には、アメリカ国内外いろいろな場所を訪れ、良い思い出となっている。

■ナッシュビル生活のススメ

ナッシュビル、VULSは、自然豊かな、美しい街の中で、落ち着いて勉強したい人にはうってつけの場所である。都会での生活に疲れた人は、きっとリフレッシュできると思う。留学をお考えの方がいたら、候補地に入れてもらえたらな、と思う。

ビーバレの夏

大 國 寿 香 (稲門弁理士クラブ)

今年もこの季節がやってきました。ビーチバレーボール大会の季節です。私の勤めている会社では毎年健保組合がビーチバレーボール大会を開催しています。この大会はグループ会社の社員全員に出場資格があり、有志が10名以内でチームを作り参加することができます。

初出場は昨年、まったく経験のない私でしたが、大会の案内を見たときに無性に出場したくなったのです。理由は一つ、「20代最後の夏に砂浜にダイブ!!」したかったから・・・。同じ知的財産部の先輩に、半分冗談半分本気で「私、20代最後の夏に思いきり夏らしいことをしたいです、ビーバレ大会に出場したいです」と相談したところ、親愛なる先輩は「としちゃん、やろう!」と即答してくれました。それが私たちのビーチバレーへの挑戦の幕開けでした。

抜群のチーム力で、昨年は3位入賞!今年は冬合宿もして優勝を目指してきました。

今年は歴代最多の32チームがエントリー。10のブロックに分かれてブロックの上位1位だけが決勝トーナメントに進めるというルールです。

ところで、私はバレーボールのセンスがとにかくありません。中学高校時代に陸上競技をやっており、陸上選手にありがちな「球技はとにかく不器用」な類です。だから、発起人であり、リーダーなのに試合は応援専門の賑やかしという立場だったのですが、ビーチバレーはとても魅力的なスポーツで練習も大好きでした。

真夏の砂浜は日よけもなく、日が昇ると同時に砂の温度もぐんぐん上昇していきます。昼前には足の裏が火傷するほど暑くなります。日焼けは怖い。けど、ボールを追いかけて砂浜にダイブするのは本当

に気持ちがいい。

海辺で砂だらけになると、心がぐんと広がる気がします。ヒールを脱いで、土踏まずに熱い砂を感



コートネーム	事業所名	年齢	PR
MIHA	本社 事業部	50(男)	イギリス仕込みの熱烈サーブに女性陣はメロメロ!!我がチーム最強の、現役☆ビーチボーイ
TAKE	本社 法務部	46(男)	温かな瞳に激しい闘志を燃やす熱き漢。まぶしい笑顔で、いざ、決戦の地へ!
TOMO	関係会社	43(女)	伝説の(?)バンド「こかーんず」を率いていた(key担当)最強のセッター!
SAYAKA	本社 知財部	36(女)	陸の王者体育会バレー部!でるか、伝説の回転レシーブ!!
SAHO	本社 知財部	33(女)	ALL JAPAN!元ラグロス日本代表。お菓子はやっぱりブルボン♡今年優勝しないとい生後悔しちゃいます。
MAESHU	組合	29(男)	走攻守揃った香川の甲子園球児。昨年よりも階級を上げての参加。今年こそ水着をカッコよく着こなしたい
HIRO	本社 知財部	27(男)	一人暮らしの夏、何かが起こりそう。いや、起こさなくては。得意技はスワローランニング
J	本社 事業部	28(男)	謙虚な気持ちで臨みます。青森の狂犬!でも甘噛み(泣)。好きな言葉は「人生万事塞翁が馬」。
NAO	本社 知財部	28(女)	6年(?)連続甲子園球場での応援経験有。ボンボンを使用した応援と低いボールに定評有り
TOSHIKA	本社 知財部	30(女)	得意なことは「走る・跳ぶ」。全国大会出場の韋駄天。幼稚園時のあだ名は「ジョイナー」。砂法にダイブしたい

図解説 わがチームメンバー。仕事も年代も異なる仲間たちがお互いを尊敬・尊重し集っています。今年も最高の布陣で挑みました。

じるとじわじわと力が湧いてきます。日焼けが怖くて街では日傘をさしているのに、砂浜にいと寝転んで太陽を見たくになります。練習の後は、(平常心なら絶対に入らないであろう) わかめだらけの緑色の海に飛び込んで、泳ぐことも厭わないし、しまいには(恐ろしいことに) ぷよぷよの二の腕やくびれないお腹を出すことに抵抗がなくなりました。不思議。けれども、ああそうか、私っていつもアスファルトで覆われた硬い地面ばかり踏んでいるんだ、体が硬くなるまでPCばかりみていたんだ、洋服や化粧で自分をよく見せようと繕ってばかりいたんだ。そして、それをしない過ごし方もあるんだ・・・と感ずることができました。こんなにおおらかな気持ちになれたのは、ビーチバレーのおかげ、その中でも、経験もない若輩者の私を温かく、力強く引っ張ってくれる先輩と、逞しくそしていつも笑わせてくれる面白い後輩がチームにいてくれるからだと思います。本当に幸せなことです。

バレーボールは声の掛け合いが大事だということで、先輩後輩関係なくコート上ではコートネームで呼び合います。大大大先輩の部長さんをMIHAとか

TAKEとかSAYAKAとか呼んでしまっているのです。それもある意味、快感要素だったのかもしれませんが。また、スポーツで築く信頼関係は、コンクリートの建物の中では決して生まれることのないあったかいものです。こんな気持ちになれたのは大学卒業してからはなかったことで、ビーチバレーを始めてからこの一年は、会社に行くことも楽しくなりました。

最後に、試合の結果を少し。昨年の優勝チームを破り決勝トーナメントに出場することができましたが、優勝はできませんでした。どのチームよりも練習を重ねてきた自信はあったのでとても悔しかったです。けれども、試合後は波打ち際までダッシュして今度は海にダイブ！ 悔しさを吹き飛ばすくらい海ではしゃいで、その後は応援に来てくださったお隣の部署の方のお手製弁当をみんなで食べました。思い残すことは何もない、完全燃焼の一日でした。

ビーチバレーをやってよかった。同じチームのみんなと出会えてよかった。30歳最初の夏も宝物みたいな思い出ができました。

ハプニング

河野生吾 (南甲弁理士クラブ)

1. ハプニングは突然に

さる9月17日の敬老の日、私は思いがけない場所で、思いがけずバンジージャンプをやるはめに、.. .ではなくて、やらせて頂くことになった。

テレビで、芸人（特にで●わ氏あたりが.. .）がバンジージャンプを強制されて、飛び降りるのを躊躇っている姿をよく見かけるが、何となくお笑いの世界の話で、まさか自分自身がその災難に見舞われるとは.. .

2. 紆余曲折

なぜそのような事態に陥ったか、話せば長くなるが、始まりは2012年8月初旬に遡る。

大学時代からお世話になっている先輩弁理士のS先生のお誘いで、S先生と親交のある韓国弁理士のK先生と新宿で夕飯をご一緒させて頂いた際、「一緒に日本一高い山である富士山に登りたい。」という話で盛り上がり、計画を立てることになったのである。

しかし、富士山への登山について調べてみると、山小屋は通常8月いっぱいまで閉じてしまい、9月以降は本格的な登山者しか富士山には登らないという情報をキャッチした。当然メンバーに登山の経験が豊富な者はおらず（体力の限界を主張する者もあり）、韓国からわざわざお越し頂くK先生に危険な目にはあわせられないという事情もあり、取り敢えず今年の富士山への登頂は断念（来年に先送り？）して、「気軽な登山」を楽しもうという結論に至った。

そして、9月の初旬頃、S先生から「気軽な登山」へのお誘いがあり、9月17日が「気軽な登山」の決行日となり、登る山は「マザー牧場」でどうかという提案がなされた。私個人としてはマザー牧場が「山」なのかという疑問が少々あったが、参加メ

ンバーから疑問の声はそれほどあがらず（心の中でのつつこみは多少あったとは思うが.. .）、登る山は「マザー牧場」ということで、決定された。

このように「日本一高い山 → 気軽に登れる山 → マザー牧場」という流れで、行き先が決定された。この経過に突っ込みを入れたくなる人は少なくないのではないかと思われるが、私にとって問題はそんなことではない.. .

3. 当日

登山（レジャー？）当日、S先生に車で日本側参加メンバーを全員ピックアップして頂いた後、K先生を迎えるべく、メンバーは一路、羽田国際空港に向かった。その車中では、まだK先生にマザー牧場ということをお伝えしていない等の話題（ネタ？）で盛り上がっていた。ちなみに今回の“登山”メンバーは、上述した先輩弁理士のS先生及び韓国弁理士のK先生と、次年度、当クラブの要職に就かれるT先生と、温厚な人柄で理路整然としており人望もあるA先生と、私の5名であった。

羽田でお迎えした際のK先生の出で立ち、正に登山のための服装であったため、私個人としては「マザー牧場」への登山をいつK先生にお伝えるのか、ドキドキしていたが、そこはさすがにS先生である。私の知っている方のなかでも豪快さでは3本の指に入るS先生は、あっさりとK先生にその旨を伝え、K先生も笑って応じられていた。私個人としては、細かいことを気にしないこのお二人の男気溢れるやり取りに感動すら覚えた。

そんなこんなで、お昼頃にマザー牧場に到着し、登山（ハイキング？）を楽しんでいる最中、K先生とS先生との間で、何やら不穏な会話がなされていた。

K先生の職場の後輩の韓国弁理士であるY先生が、S先生が韓国に行った際に、50mの高さからバンジージャンプをしたとか、Y先生はとてバンジージャンプを嫌がっていたが、K先生から「せっかく日本からS先生が来ているのだから」等のY先生への説得により、決行されたとか、そんな内容であったと記憶している。

私はこの会話に恐怖すら覚えた・・・

今回の参加メンバーで私は一番年下であり、しかも、今回はK先生は、わざわざ韓国から日本の山（牧場？）にお越し頂いているのである。しかも、韓国では、今回と酷似した事情によって既にバンジージャンプが決行済みなのである。

実は、今回、このような事態に備えて、私の後輩であり、新進気鋭のイケメン弁理士であるO君も誘っていたのであるが、私の先輩としての威厳が無いのか、家庭の事情が厳しいのか不明であるが、無碍に断られた経緯があったのだ。

しかし、よくよく考えてみると、マザー牧場のようなファミリー向けのレジャー施設で、そのようなデンジャラスな設備が用意されていることは想定し難く、この点で、若干の安心はあったのだが、T先生から「バンジージャンプ有るよ！！」とのご案内があり、マザー牧場のパンフレットを見てみると、確かに、そこには上記設備が示されていた。

私は、後輩であるO氏に思いを馳せるとともに、最近必ずしも芳しならぬ韓国と日本の友好の為に、「今回は飛ばねばならぬ！」との思い至り、心の中で（※口に出していたかもしれませんが）、バンジージャンプをやることを決意したのである。

4. バンジージャンプ

15m程度の高さであり、50mに比べればそれほど高くはなく、大丈夫かと思っただが、実際に飛び降りる場所にしてみると、その考えは誤りであったことに気づく。

しかし、自分の前に飛び降りたのは何と女性であり、しかも、あっさりと躊躇いもなく飛び降りていったのを見て、自分の漢（おとこ）の血が騒ぎ、日本男児たるもの飛び降りる直前で躊躇するわけにはいかないと決意したのである。

そして、その時は訪れた・・・

足から飛び降りた筈であるが、気づくと頭から落ちており、比重の重い側が落下時には重力方向を向くという自然法則を、身をもって知ることができたのは何よりの収穫であった。

「終わってみれば、どうということはない。」と格好よく言いたいところではあるが、実際はそんなこともなく・・・

できれば、次回のバンジージャンプは、着々と育っているO君を含めた後輩達に譲りたいと思っている。

5. 最後に

このような取り留めもない話に最後までお付き合い頂きましてありがとうございました。

また、無断で話に登場させてしまったS先生、K先生、Y先生、T先生、A先生、O君広い心でお許し下さい。

さらに、マザー牧場は基本的には素晴らしいレジャー施設であり、この点は誤解のないように付け加えさせていただきます。

（おしまい）



「ヘタでもやる！趣味」の復活

西村 雅子 (南甲弁理士クラブ)

自分でも不思議に思う。ひょっとしたら東日本大震災の影響かもしれない。生きているうちに心残りのないように、やりたいことをやっておこう、とか。理由はともあれ、昨年秋、「忙しいから今〇〇はできない。老後の楽しみにしよう。」という考え方はやめようと思い立った。それから1年、2012年の夏から秋に3つの発表会を終了。

まず、ピアノである。なんと25才までレッスンを受けていて、才能はないのはわかりきっていたが、やめる頃には（今思えば）難易度の高い曲が弾けていた。数年前に思い立って、亡き母の誕生日にピアノを買った。（母は子供の頃ピアノのレッスンを厳しく強要したが、今となっては感謝している。）ヤマハのアップライトの中では一番安いながら、モダンな木目調で気に入ったもの。しかし自分でポロポロ弾いてみて、あまりに弾けないので愕然とした。まず左手が右手と違う動きをする、という基本的なところからダメである。これでは老後の楽しみどころか、老後から再開では楽しんで弾くレベルには、まったく回復しなかっただろう。思い立つのが早め(?)でよかったというか。自分でたまに弾くくらいではまったく回復しないので、仕事の帰りに寄れるところを選んで、昨年10月から月2回のレッスンを開始した。今はバッハのインベンションの2声はなんとか弾けるが3声はムリ、というレベル。インベンションのテキストはウン十年前に使っていた楽譜を実家から掘り出してきて使っているが、2声の多くの曲に暗譜したことを示す「m」のマークが付いている。これを暗譜していた若き日の自分に驚きである。

練習量は多くないが今年の7月には、なんと発表会に出てしまった。といっても小さい会場で家族さえ呼ばず、ひっそり。でもやってよかった。曲はヘ

ンデルのシャコンヌ（ト長調 HWV.435）。各曲は短い21の変奏曲からなる弾きやすい曲である。発表会直前は（自分としては）猛練習したので何とか通してミスはほとんどなく弾けるようになったが、本番はポロポロ間違えた。練習の時のように弾けないというのは当たり前、ということで、来年もやってもいいな、と思う。

次は、フルート。これは大学の時から始め、グループレッスンから、その後、個人レッスンもしたが、仕事が忙しくなるにつれレッスンはお休みに。その時はフルートどころではない、優先順位は低い、と思っていた。昨年思い立って、仕事帰りの遅い時間に寄れる自宅近くで個人レッスン再開。ところが、非常に厳しい先生に当たってしまい、呼吸法、タンギングという基本的なところに徹底的にダメ出しされた。レッスンを中断して基本練習をせず曲だけ自分で勝手に吹いていたのがよくなかったようだ。趣味でやっているのにレッスンが楽しいどころか、いつもダメ出しでがっかりということで、年内でやめるかも、と自分で思っていたくらい。しかし、基本的なことを重視する先生は「よい先生」。気を取り直して年明けにレッスンに行くと、愛想がよいとは言えない先生が、心なしか、ちょっとうれしそうに見えた。レッスンは今も続いており、9月に久しぶりの発表会に参加した。私より年長の方と、バッハの2本のヴァイオリンのための協奏曲のフルート版（但しスローテンポの2楽章のみ）。

そして、チェロ。チェロを買ってレッスンを始めたものの断念した友人からもらったので、もったいないからということと、弦楽器は初体験で興味があったので、レッスンを始めることにした。（これで打楽器のピアノ、管楽器のフルートに加え、弦楽器も！と悦に入っている。）まったくの初心者からの

レッスン。まだ音階をきれいに弾くこともできないのだが、きれいな音でなくては意味がない、というチェロ先輩の知人に紹介してもらった芸大出身の若い先生の方針が、そのとおり、と共感し音階練習をまじめにやっている。このトシになって新しいことに挑戦するのは自分を活性化するように感じる。先週できなかったことができるようになる、先週よりいい音が出せるようになる、という進歩が実感できるのは、長年やっていることでは、なかなか感じられない。

チェロも9月に発表会に参加した。日曜だったが大学院の仕事が入っていたので駆けつけで、本来は小学生より前に弾くトップバッターだったのが、到着次第弾く、ということで落ち着いては取り組めなかったが。曲はバッハの簡単なメヌエットで友人に伴奏を頼んだ。弦は音程を合わせるが一番の問題。ここがピアノ（音程は調律がちゃんとされていれば問題ない）やフルート（息の角度などで上下はするが大きくははずれない）と大きく違うところである。伴奏の友人には「音程は合ってたよ」（他にもっとひどい人がいた、みたいな）、先生には「ちゃんと弾けてたよ」と言われ、まあ曲になっているというレベルではないながら、続ける動機づけができたところである。

以上の楽器の練習は平日はできないので週末のみである。よって、仕事も外出もない土日にとっては忙しいことになる。練習できないでレッスンに行くこともあるが、レッスンで演奏するだけでも何もしないよりよい、と割り切っている。レッスンについては、よくそんな時間がありますね、と言われるが、仕事帰りに帰宅が1時間遅れるだけであり、またレッスンが入っていると飲み会を入れられない、というメリット(!)がある。あるいは土日レッスンを入れて、その足で仕事、ということもある。ということで、隙間時間に入れられる。準備書面作成が趣味(?)のN弁護士(数年来の旅行&飲み会仲間)か

らは「西村センセ、そんな時間の無駄しないで仕事しないと」と言われるが、脳の活性化という点で仕事にもメリットがあるのでは、と勝手に思っている。何より楽器をやっているときは、仕事などを忘れて無心になれるところがいい。それと、仕事で疲れちゃってフルートなんか吹けないよ～という気分でも、レッスンに行って吹いているうちに元気になるから不思議である。特にフルートの腹式呼吸は健康によいと実感する。更なるメリットは発表会の緊張感である。どんなに小規模の発表会でも、やはり本番は緊張する。その中で平常心を保って演奏するという、ある種の精神修養になるような、気がする。

今秋は以前からのフルート仲間との軽井沢での合宿にチェロも持って行って久しぶりに参加した。夜のワインを飲みながらのトークタイムが楽しみなのである。

最後に、そのワインについてちょっと触れたい。かなり前に友人との私的なワイン会で勉強していたのだが、一同ただの飲み会と化す、という状況ではほとんど勉強になっていなかった。昨年、WSETという英国のワイン資格取得のための講座で、英語で講義するという講座を見つけたので、仕事上のスモールトークのネタと一石二鳥と思い、やはり昨年秋から受講開始。この春にギリギリセーフで初級に合格。マジメに記憶しなければ次のステップはおぼつかないと実感した。記憶力が残存しているうちに、ということで、ここでは記憶力の鍛錬である。ただ今、中級コースを受講中。ただし、分厚い英語のテキストはほとんど未読であり、試験前に読み込む、つ・も・り。何よりの収穫は新たなワイン仲間。同じく皆、勉強よりも飲むのが好きなビジネスパーソンたちなのだが、この先試験に向けて励ましあっていけそうである。ということで、ワイン関係においては、楽器のレッスンで減ったはずの飲み会が増えてしまったのでした。

プラネタリウムを巡って

林 裕 己 (南甲弁理士クラブ)

1. 始めに

今年、金環日食、金星日面経過、金星食等、天体ショーの当たり年のようです。特に、5月の金環日食については、173年ぶりに首都圏で観測できるという稀有な機会から様々なメディアで取り上げられたので、ご覧になられた方も多いのではないでしょうか。私も、自宅から金環日食を観察しました。日食グラスを使って観察しようとしていたのですが、あいにく雲がかかっています、思うように見えなかったのですが、それでも、わずかな時間、雲の切れ目から観察することができました。太陽と月のランデブーは、なんとも神秘的であり、これが初めての日食体験だったので感慨深いものがありました。天体に関して、このように感じたのは、小学生の頃以来かもしれません。あれは、小学校の屋上で天体観測会なる催しに参加したときだと思います。ただ、今となっては何の天体ショーを見る目的だったかは忘れてしまったのですが、変な高揚感があつたのを覚えています。今回の金環日食を契機に、忘れていた天体への興味が湧いてきて、ふと、「あつ、プラネタリウムに行こう」と思い立ちました。

2. プラネタリウム

プラネタリウムの起源は、紀元前にまで遡ることができますが、投影機を用いた現代のプラネタリウムは、1923年にドイツでプラネタリウム投影機が発明されたことに始まります。日本においては、1937年に最初に大阪にプラネタリウム施設ができたことに始まります。国内2番目は1938年に東京にできました。その後は、日本各所にプラネタリウムができました。現在、都内でも、日本未来科学館の「ドームシアターガイア」、渋谷にある「コスモプラネタリウム渋谷」、サンシャインにある「コニカミノル

タプラネタリウム“満天”、東京スカイツリータウンにある「コニカミノルタプラネタリウム“天空”」等、多くのプラネタリウム施設があります。そのうち、「ドームシアターガイア」と「コスモプラネタリウム渋谷」に行ってみることにしました。

2. ドームシアターガイア

日本科学未来館には、ドームシアターガイアというプラネタリウムがあります。夏休みということを考えて開館前に行ったのですが、既に多くの人と並んでいました。その日は3D作品「BIRTHDAY」を観賞することにしました。「BIRTHDAY」は、太陽系、銀河系等の誕生のシーンに立ちあつていく作品です。プラネタリウム内に入場すると、既にかつかりの人が入場していました。わずかに残つた席を見つけて、そこへ着席しました。リクライニングシートの背もたれ部分を後ろ側へ倒して、上半身仰向けになり、ドーム状の天井が視界に入ってきました。上映開始の時刻になると、ドーム内が暗くなったので、3D用グラスをかけてスタンバイしました。プラネタリウム内は一瞬にして宇宙空間に変わってしまったかのようでした。ドーム状のスクリー



ーンに映し出された映像は、高精細で美麗で、それでいて3D感がかなりよく、ほんとに小惑星が自分の周囲にあるような錯覚を覚えるくらい、かなり臨場感がありました。

3. コスモプラネタリウム渋谷

コスモプラネタリウム渋谷は、渋谷駅の近くの渋谷区文化総合センター大和田の12階にあります。その日は早めに行ってチケットを購入しましたが、上映まではしばらくあるので、久々に渋谷を見て歩きました。今年4月に開業したヒカリエからは、コスモプラネタリウム渋谷のドームがよく見えました。上映時刻が迫ってきたので、コスモプラネタリウム渋谷へ向かうことにした。上映が開始すると、まずは、解説員の方より当日の渋谷の星空の説明がありました。その後、コスモプラネタリウム作品が始まりました。映像のクオリティーや視覚効果等はかなり高く、すばらしいものでした。上映時間は解説まで含めて50分でしたが、あっという間に終わったような印象でした。

同センター2階には、2001年に閉館した「五島プラネタリウム」で利用されていた投影機が展示されています。渋谷のプラネタリウムの歴史を感じさせてくれます。



4. 最後に

満天の星空は、郊外に行かなければ、都心周辺ではほとんど見ることはできません。しかしながら、プラネタリウムは擬似的に満天の星空を体感させてくれるだけでなく、都会の喧騒を忘れさせてくれるので、知的好奇心を満たしてくれると共に心身のリラクゼーションにも効果的だと思います。したがって、今後も、各所のプラネタリウムに行こうと思いますが、特に興味を惹かれるのは、「名古屋市科学館」です。「名古屋市科学館」は、2011年にリニューアルし、そこにドームの内径が35mという世界最大のプラネタリウムがあります。この巨大なドームにより、限りなく本物に近い星空が体感できるようです。ここへは、ぜひ行ってみたいと思います。

最近思う事

藤 田 健 (南甲弁理士クラブ)

◎はじめに

会員便りの執筆の機会を頂きました。お題は自由との事だったので、最近思っている事を自由に書かせて頂きます。

◎モノの価値、サービスの価値

私の働く会社(特許業務法人)は、千代田区二番町にあります。特許庁からタクシーで10分ほどで、なかなか良い場所だと思っています。最近、最寄りの麴町駅付近には、妙にドラッグストアが目立ちます。頭の中でパッと数えても5店程すぐに思い浮かびます。こんなにドラッグストアが密集してて儲かるのかなと常々疑問に思います。実際、数店を回ってみると、相当な価格競争が起こっています。商品によっては郊外よりも安い。東京のど真ん中で相応のテナント料も払って、こんな値段で大丈夫?と、他人事ながら心配になってしまいます。

消費者感覚としては、安ければ安いほどいいとついつい思ってしまうのですが、こんな事をしていたのでは、売る方も馬鹿馬鹿しくなってしまうのか心配です。弁理士として特許の仕事をしているからこそ余計に思うのだと思いますが、商品には開発者の思いや工夫が詰まっています。そういう思いや工夫に見合う価格が商品にはついていて欲しいと思います。

これを書いていて、企業知財部の友人と一緒にニューヨークのMoMAストアに行ったときの事を思い出しました。MoMAストアには、デザイナーによる洗練された商品が数多く並んでいます。友人がおしゃれな扇風機の価格を見て、「モーター一つ動いている扇風機が、精密機械が詰まったDVDプレーヤーよりも何で高いかな」とつぶやきました。確かにその扇風機は、デザインも良く、使っていて

使い心地が良さそうでした。機能面、技術面で見れば、そんなに大したことなくても、意匠として価値があり、結局、それが価格に反映されているのですが、技術屋から見るとどうにも納得できなかったようです。私は企業の人間ではありませんが、わかる気がします。

技術者の頑張りにより、電化製品はどんどん進化しているのに、値下げ値下げで、すぐに安価になってしまいます。その一方で、デザイナーも頑張っていますが、グッドデザインの商品はなかなか値下げはないように思います。MoMaの扇風機もそうですが、iphoneなんかも、値下げがなしでも、見た目のカッコよさで売れている部分が結構あるのではないかと思います。この差は何なんでしょう?見た目がよいモノの値下げが必要ないのは、「見た目がカッコいい→持っていて気持ちがいい→他人が持っているとうらやましい→ステータス→高くても欲しい→値下げの必要なし」、こんな仕組みでしょうか。

ところで、特許事務所業界にも、値下げの波は来ています。最近では、信じられないような価格破壊も起こっているようです。まっとうな競争原理だと思います。この中で、自分達がどう生き抜いていくか。大変面白い時代に弁理士になれました。何の強みもなければ、値下げ要求に反発する根拠がなかなかありません。まあ買い叩かれます。ただ買い叩かれるのでは、疲弊し、やる気もなくなってしまいます。我々の仕事の多くは明細書の提供です。やる気なくなった明細書は最悪です。お客様に望まれるサービスを提供して、その正当な対価を堂々と頂く。理想的には、お客様が大金を払ってでも、自分達のサービスを提供して欲しい。そのように思われる弁理士になりたいと思っています。

上記のグッドデザインの仕組みを特許事務所に適用すると、「他社が使っているとうらやましい→安定感、安心感→高くても使いたい→値下げの必要なし」という感じでしょうか。まあ、どうやって、皆が使いたい事務所になるかが最大の問題です。。考えてもアイデアは出ないかもしれませんが、考えないとアイデアがでることはないので、国内外のお客様に喜んでもらえるサービスを提供すべく、考え続けたいと思います。

◎頑張れ！日本

最近、日本の競争力の低下を見ていると、寂しくなります。日本の調子が良いときは、どこの国の製品なんて気にせず、気に入ったものを買っていました。しかし、最近では、やはり日本企業に頑張ってもらいたいと思い始め、欲しいモノがあると、できれば日本製がないかなと思い始めました。そうすると気づくこともあります。

たとえば、最近、サングラスを購入しました。眼鏡で有名な福井県鯖江市のメーカーの製品です。サングラスを探し始めた当初は、サングラスで有名な海外ブランドのものも見ました。棚に並ぶサングラ

スだけを見れば、とてもカッコいいのですが、自分でかけてみると、頬骨に大分当たったり、まつ毛がレンズに触ったりと、なかなかしっくりきませんでした。外国製サングラスは、やはりホリが深い顔にあっているのでしょうか。そんなとき上記日本製のサングラスにめぐり合いました。頬骨もあたらしくしっくりきて、即購入を決めてしまいました。

また、ダイニングテーブルセットを探していたときも、飛騨の職人が作っているものに決めました。海外製だと、テーブルの高さが大体90cm以上で椅子もそれに合わせて高く作られており、座ると少し緊張します。一方で、飛騨職人のテーブルは、75cmと低く作られており、なぜか安心感があり、とても落ち着きます。これも一目惚れで購入を決めました。

日本人には、自分たちにとって良いものを作る繊細な感覚と能力があると思います。同じ感覚と能力をもって、世界にとって良いものも作れると思っています。世界に誇れる日本の製品が今後もどんどん出てきて、競争力が高まるのを期待しています。特許事務所として、その一助を担えればと思います。

登山とクラウドウォッチング

中村雅文 (PA会)

1. はじめに

皆さんは、雲をゆっくり眺めたことがあるでしょうか。雲なんか眺めていると、何をしているのか？と聞かれるか、または、雲を眺めているといえば、楽しい？と言われるのがせいぜいではなからうか。しかしながら、「雲」の楽しみ方^{*1}という本があるのである。

バードウォッチングという言葉は良く聞くが、この本は、聞き慣れない「クラウドウォッチング」の本である。10種雲型のそれぞれについて、科学的に、そして、科学とは関係のないエピソードを混ぜて、興味深く書かれている。

例えば、積乱雲の章では、科学的な説明の間に、緊急脱出した戦闘機パイロットが、積乱雲中をパラシュートで降下してゆき、無事生還するくだりが、緊迫感をもって描写されているかと思えば、シェークスピアのリア王の一場面が、描写されたりしている。

2. クラウドウォッチング

ところで、クラウドウォッチングを多少とも実践しようとするなら、その基本はやはり、観察している雲が10種雲型のうちの何という雲であるかを判別することである。遠くの雲が、積雲であるか、積乱雲であるかくらいはすぐ見分けがつくのであるが、ほかの雲を区別することは、結構難しい。

例えば、見ている雲が、層雲か、層積雲か、乱層雲かを区別することは、なかなか難しい。雲は、その高さから、低層、中層、高層に分類されており、更にその特徴から、10種類の雲型に分類されて名前が付けられている。しかしながら、自分の上にある雲の分類を

しようと思っても、下から見ているので雲底しか見えず、高さが良く分からない。また、本にイラストで載っている雲の形の特徴は、斜視的に見たようなものなので、下から見ても、形も良くは分からないのである。

クラウドウォッチングには、多少の工夫がいるようである。私の体験したクラウドウォッチングを以下に幾つか紹介してみる。

3. 上から見た雲

雲をその斜め上から見る事ができれば、雲を簡単に分類できるような気がする。そんな方法の一つが、登山である。

登山をすると、雲を近くからそして上から、比較的長い時間の間見ることが出来る。日常にはなかなか無い体験である。先日、槍ヶ岳山荘の前からふと谷を見ると、丸い雲が寄り集まって、山で囲まれた谷の中に閉じ込められていた(写真1)。これぞ、積雲が層になった層積雲であろうと思った。やはり、山に登ると、上からなのでよく見える。しかし、この雲も、太陽が高く上がるころには、消えてしまう。



写真1

4. 雲の上の雲

今年、PA会のアウトドア同好会の主催の本年第1回目の富士登山に参加させてもらった。山開き直後の7月の初めであった。梅雨時にもかかわらず、初日は運よく天気恵まれた。五合目から歩きだして、だんだん天気が良くなってゆき、八合目の山小屋に到着する前に晴れ、富士山中腹から積雲が自分より下に見えた。そして、その上には、高積雲と思われる高い雲が見られた(写真2)。積雲の間からは、下界の湖と街並みが見える。地上から雲を見ていると、雲と雲の間に見えるのは空だけであり、登山してこそ味わえる風景である。



写真2

5. 通り抜けた雨雲

その富士登山の下山の時に、八合目から六合目の間でわりと強い雨に遭った。五合目に降りると、雨の気配がなくなっていた。雨がやんでいるところまで来て、雨雲を歩き抜けて来たんだと思った。雲の中に入ると型は分からないが、クラウドウォッチャーなら、乱層雲を通り抜けて来たと言うのであろう。

6. 振り切った雨雲

尾根を下山中に、雲が出て来て雨が降ってきたことがある。下山を急いで雲を振り切ったら、非常に蒸し暑くなった。もう雲はここまでは追って来れないのである。ここまできると、水蒸気に戻ってしまうだろう。

7. 横から見た雲

天気の悪い日に、山小屋の前の稜線に、谷から雲

が噴き上がってくるのを見ていたことがある。破れた白い布が、稜線から斜め上に向かってはためいているように見える。これは、上昇気流により雲ができて、稜線を乗り越えて、反対側に降りると、一瞬にして、雲が消えるということのようである。雲の発生と消滅が、下から見ているのでは分からないような速さで起こっていた。近くで見ると、雲は思っていたより、敏捷である。

8. おわりに

クラウドウォッチングだけのために、登山をするということはないけれども、山に登ったついでにクラウドウォッチングをすると、山に登っただけではないプラスアルファの楽しみが得られると思う。登山とクラウドウォッチングは、とても相性が良いので、これからも、続けていければと思っている。

注*1: 「雲」の楽しみ方」、ギャヴィン・プレイター＝ビニー著、桃井緑美子訳、2008年3月20日4刷発行、河出書房新社刊

子持ちで働きながらの家事工夫

野田 裕子 (PA会)

はじめに

現在、私は、2人の男子を育てつつ、弁理士として仕事に邁進する毎日を送っています。子供がいると、生活習慣等を子供に合わせなければならず、思うように家事ができなかったり、疲れて家事をする気も起きなかったりと、家事がおろそかになりがちです。どうやってうまく家事を済まそうかと考えて、現在実践している私なりの工夫をご紹介します。

工夫その1 食料調達

共働きのため、子供達を保育園に預けており、迎えの時間が勤務時間+通勤時間の範囲で決まっています。そのため、平日に買い物に行く時間は、ほぼ皆無です。我が家では、以下のようにして、食料を調達しています。

- ① 日曜日・・・「イエコック」のカット野菜の定期宅配
- ② 月曜日・・・生協「パルシステム東京」の個人宅配
- ③ 木曜日・・・生協「コープとうきょう」の個人宅配
- ④ 週末(不定期)・・・ベネッセの食材宅配

それぞれの宅配の用途、詳細、感想等は以下の通りです。

①のイエコックは、2～3人分のカット野菜1週間分を、毎週、希望の曜日と時間帯に宅配してくれます。私は、届いた野菜を平日5日間の夕食に主として使用しています。カット野菜の種類としては、生野菜を洗ってカットした「冷野菜」と、カット済みの蒸し野菜をパックした「温野菜」があります。食事作りにおいて野菜の下ごしらえは結講時間がかかり、平日夕食準備のネック・ストレスとなっていました。この宅配のおかげで、夕食準備がはるかに

に楽になりました。

②のパルシステム東京は、上記の4つの宅配の中で1番最初に利用し始めたもので、新鮮な野菜、肉、魚等が届き、オリジナルブランドも充実しています。私が住んでいる地域では、月曜日の午前に配達され、仕事が休みでない限り勤務中で留守にしているの、注文した商品は保冷箱に入れたまま、ドアの脇に置いてもらっています。私は、主に、米(年間予約米)、牛乳、卵、メインのおかずにする肉・魚、朝食のパン、果物等、必要な食品の大部分をここで調達しています。我が家で評判がいい商品は、オリジナルブランドの冷凍餃子です。手作りの味に近いところが気に入っています。この商品は少々割高ですが、どれもおいしく、野菜・果物の新鮮度の高さは感動ものです。

③のコープとうきょうは、私が住んでいる地域での配達日時が木曜日の夕方であるため、②で月曜日に配達してもらおうと週末まで日持ちしないパン、牛乳、野菜、果物などを主に注文しています。つまり、専ら②の補助として利用しています。たまに、週末昼食用のラーメン・うどんの調理セット等ここでもか買えないものを頼むこともあります。品揃えは、②とは異なって、一般のスーパーで売られているのも多いと感じています。値段はこちらの方が多少お得感があると思います。

④のベネッセの食材宅配は、元々は長男に色々食べて欲しくて始めたものですが、残念ながら頑固な彼には子供が食べやすいような調理の工夫があまり通じず、現在では、専ら食事内容のマンネリを防ぐ目的で週末の夕食用に利用しています。欲しいメニューの食材だけ頼むことができ、普段使わない調味料などが使い切り少量で届くため、色々試せるところが便利です。材料の量は、我が家の場合、大人2

人と子供1人分のMサイズで十分足りるか、おかずによっては余り、余った分は平日の副菜に回します。普段とは異なる何かを作りたいという欲求に答えてくれるので、子供達には不評でも続けています。

工夫その2 料理

我が家の子供達の中でも長男は、手の込んだもの（普段見慣れないもの）ほど食べないので、シンプルな味付けで食材を調理することがほとんどです。どのみち、平日は時間がないので、シンプルな調理で完成できるもので良いといえば良いのですが、色々食べて欲しいと思う親心があるため、複雑な気持ちです。もっとも、シンプルな分、食材の品質、調味料は、それなりにこだわって、なるべく上質なものを使用しています。最近のお気に入り調味料は、柴沼醤油醸造の醤油「紫峰」と、角谷文治郎商店の「三州三河みりん」です。なお、塩は天然粗塩を使っており、砂糖は黒糖に近く、あまり精製されていないものを適宜選択して使用しています。

また、平日夕食準備の命題は、短時間で料理を完成させることにあります。調理時間短縮のために利用しているものとしては、電子レンジとルクエのシリコンスチーマーです。これを使用することで、メインのおかずをフライパン等で作りつつ、野菜の副菜を作ることができます。冷凍のシュウマイを蒸したりするのも使え、非常に便利です。その他にも、グリルやオーブントースターを使用して、楽に主菜・副菜を同時並行で作っています。

主食のご飯は、朝、炊飯器のタイマーをセットして、帰宅したら炊きあがっているようにしています。たまたま忘れてしまったときは、圧力鍋で炊きます。

さて、料理で案外手間取るのは野菜の下ごしらえです。この野菜の下ごしらえを出来る限りやらなくて済むよう、上述したイエコックのカット野菜はもちろん、上記の生協で、ゴボウ、カボチャ等の冷凍野菜を購入し、料理時間の短縮を図っています。また、野菜を多くとる意味で、具沢山の味噌汁を何日分かつ作って食べるようにしています。ただし、夫には不評で、子供達も、離乳期にはよく食べていたに

もかわらず、成長とともに味覚が変わったのか、最近あまり食べてくれず、悲しいところです。ちなみに、子供受けする野菜のおかずは、カボチャの煮付け、にんじんサラダ（生又は蒸したもの）ぐらいなので、普段は大人向けの野菜のおかずを作り、時々子供が確実に食べてくれる前記のようなおかずを作るといようにしています。

工夫その3 掃除その他

現在、一軒家に住んでいますが、かつてマンションに住んでいた頃と比べて掃除する範囲が広く、なおかつ、週末しか在宅でないため、なかなか掃除が行き渡りません。そこで、1年半程前から、月1回の頻度で、ミッシェル・ホームサービスに、掃除、洗濯物、部屋の片付けを依頼しています。特に、この1年ほどは、土曜日に研修に行くことが多かったため、毎月1回部屋を綺麗にしてもらうだけでも、大変助かります。

また、家事に役立つ便利な道具として、食器洗浄乾燥機があります。食器や調理器具の片付けが非常に楽になります。うまくセットできていないと、洗い残し等あつたりしますが、それを差し引いても、私にとっては欠かせない道具の一つです。あとは、すぐに取り出せるところに小さい箒とちりとりを置いて、子供達が食べこぼして床に落ちた食べカスなどの掃除がすぐにできるようにしています。

おわりに

以上に挙げたもの以外にも、自分なりに色々工夫して、日々の家事を乗り切ってきました。現在、探せば色々な食材宅配や家事代行といったサービス、便利な道具があるので、それぞれのライフスタイルに合わせて利用すれば、ストレスも軽減でき、楽に家事ができるようになると思います。もし、家事でお困りであれば、ぜひ、これらのサービスを色々試してみてください。当然、お金はかかりますが、自分でできなくてイライラするよりは、多少お金がかかってもやってもらった方が身も心も随分楽になりますので、試してみる価値は十分にあると思います。

独立開業のススメ

吉田 みさ子 (PA会)

独立開業のどたばた

2012年1月に独立開業してから、現在、約8ヶ月が経過したところです。開業資金も乏しく、とにかくおカネがない。どう考えてもかなり無謀な独立開業でした。

という訳で、おカネがないので、第1に節約、第2に節約です。

とりあえず事務所は間借りです。知人の弁理士に頼み込んで、場所を貸してもらうことにしました。これで、保証金などの支払いをなくすことができました。パソコンは週末の特価品を狙い、物を買うのは必要最小限に留めます。とにかく安く、安くを徹底しました。

最初は、あれも欲しい、これも欲しいと思っていたのですが、最近は「まあいっか、別に～」というモードに変化してきました。気がなくなってきたのでしょうか。それとも、貧乏な状態に慣れてきたのでしょうか (^_^;)。

おカネについて、最初は不安でしょうがなかったのですが、悩んでもおカネが増えるわけじゃなし、そのうちなんとかなるわ、と考えるようになってきました。そうなると、気楽なものです。先に開業した先輩方から話を聴くと、最初の1年～1年半は赤字だったと言われます。まあ、世の中そんなものだと、割り切っています。

初めての営業活動

さあ、開業したと言っても、お客さんのアテはありません。とりあえず、何も分かりません。取っ掛かりは商工会議所でした。1月ですから、新年賀交歓会があります。参加費が1万円くらいと少々お高いのですが、取り敢えず参加できるのに参加しまし

た。それから、ビジネス交流会にも積極的に参加しました。

営業というのは、水物ですね。本当に運・不運の世界。新年賀交歓会で話をした社長さんが、ある中小の玩具メーカーを教えてくださいました。ここに連絡を取れと。連絡を取ってみると、ちょうど特許事務所を探していたとのことで、クライアントになって頂くことができました。

たくさんの名刺交換をしました。8ヶ月で800枚です。交流会経由でクライアントになって頂いたのは、この1社のみ。なかなかクライアント獲得には至らないのですが、それでも様々な出会いから、徐々にネットワークが広がっています。

朝活

商工会議所の交流会でも、様々な出会いがありました。交流会で知り合った方から、BNIという朝会を紹介されました。1グループに、1業種1社のみが参加できるビジネス交流会です。私は、3月に水道橋のフォレストというチャプターに加入しました。入会金と年会費が12万円。別途、1回当たり2500～3000円の会費。会は毎週です。毎週水曜日、朝6:30に水道橋のホテルに集合。はっきり言って、早起きはつらい!!!

では、効果は如何なものでしょう?今のところ、大変な割には・・・というところですね。ただし、これから芽が出そうな予感があります。BNI経由で知り合った方とコラボレーションしてセミナーを企画しています。また、これからちょっと大手の企業さんのお偉い方を紹介して頂ける予定になっています。これらが、どのような結果になるか、非常に楽しみです。

研修と情報収集

一般の方々には、弁理士＝知的財産に関することなら何でも知っている、と思っています。なので、質問されたことに極力応えられるよう、研修と情報収集が欠かせません。これまでやったことのない業務をやるようになってきているので、特に研修は大事ですね。仕事量が少なく、時間に比較的余裕がある今の内に、ということで、非常に多くの研修に積極的に参加しています。会派などを通じて、弁理士同士の付き合いを続けてきたのも功を奏しました。分からないことがあると、電話して教えて頂いています。経験のある先生方に教えてもらえるというのは、本当にありがたいことです。

情報収集は、話題づくりのために必須です。一般的なニュースになるような、例えば佐藤食品VS越後製菓の訴訟や、アップルVSサムソンの訴訟など注目度の高い訴訟なんかを簡単に説明するだけで、ぐっと信頼が上がります。こいつ、できるな、という印象を与えることができるわけです。

仕事の状況

お仕事の状況ですが、厳しいです！！なかなかクライアント獲得ができません(>_<)。でも、クライアントになって頂いた企業様(2社しかないけど)には、非常に高い信頼を頂いています。そんなに仕事量はありませんが、お仕事があるときには出して頂けるようになっていきます。クライアントは、徐々に増えれば良いわけです。やっぱり、ひとつひとつの仕事をきっちりこなすことが、一番大切ですね。

総括

独立開業する決意をしたとき、とにかく資金面の

ことが不安でした。独立開業の最大の懸念事項ですよ。最初の数ヶ月は通帳を見てはため息をついていました。精神的に、非常に辛かった。

いまは、おカネを気に病まなくなったので(おカネがあるわけではない)、非常に楽になりました。異業種のたくさんの友人や仲間もでき、世界が広がりました。なにより、人間関係のストレスがありません。

様々な営業活動を通して、協力者も増えつつあります。これが、何よりも嬉しいことです。全く一人で営業活動をするのと違って、相談しながら、パワーをもらいながら営業活動をすることができます。

結論としては、独立して非常に良かったです。まだまだ自分の仕事を選べるような状況ではありませんが、将来的には自分が本当にやりたいと思っている仕事ができるように、日々、精進していこうと思っています。

独立開業を考えている方へ

独立するならば、前もっていろいろな交流会などに参加しておくことをオススメします。ネットワークが広がるまでには時間がかかります。ある程度のネットワークを予め形成しておくことで、仕事獲得までの時間を短縮することができます。大手有名企業にお勤めの方は、お勤め中に動くことにより、その肩書きを営業活動で利用できます。

独立開業には何の保証もありません。安定した収入なのか、自由と楽しい仲間たちなのか、一発当てるのか、何を重要視するかは、当人次第です。それをよく考えて、自分の欲しい物は何なのかを適切に判断して、決断されると良いと思います。

クラブセッティング

伊藤 隆 治 (P A会)

パテントマスターズを半月後に控えた5月10日(土)、研修所の懇親ゴルフに初めて参加させていただいた。この時の私のクラブセッティングはドライバー(1番ウッド)、スプーン(3番ウッド)、2番アイアン~9番アイアン、ピッチングウェッジ、アプローチウェッジ、サンドウェッジ、パター、というものであった。



昨年のパテントマスターズではグロスで「82」というスコアで個人戦2位の成績であったが、研修所の懇親ゴルフの前半9ホールを回っている途中で、今年のパテントマスターズでは良い成績を残すことはできないと思った。

ドライバーとスプーンのショットが左右に大きく曲がってしまいゴルフにならないのである。「ゴルフ」というよりは山に来てキノコの代わりにボールを探しているような状態であり、同伴競技者には大変な迷惑をかけてしまった。

パテントマスターズといえば、個人戦だけでなく会派対抗の団体戦があるのが楽しみの一つである。私は学生時代にゴルフ部に所属していたことから、P A会の団体戦の成績に貢献しなければP A会のゴ

ルフ同好会の方々に期待外れと思われるのではないかと密かなプレッシャーもあり、少なからず焦っていた。

私がゴルフの練習を始めたのは小学6年生の頃で、ちょうど石川遼プロが生まれた頃である。中学では野球部に所属していたが、高校と大学でゴルフ部に所属し、大学では学生のゴルフ大会にも出場した。

中学の野球部で4番を打っていたこともあり、大学生の中でも飛距離は出る方であったが、その分ボールは曲がった。隣のホールすら飛び越えてしまうのは日常茶飯事である。やっとまっすぐ飛んだかと思えば、ミドルホールのティーショットがグリーンを超えてOBになってしまうこともあった。大会の時には1ラウンドに1回しかドライバーを握らず、あとはスプーンと2番アイアンでティーショットを打ち、なんとかスコアをまとめて優勝したこともあった。言うまでもないが、石川プロにはその後あつという間に追い抜かされてしまった。

さて、研修所の懇親ゴルフの後、パテントマスターズまで2週間を切って、どうしようかと考えていた。私はゴルフの前、特にコンペの時には長いクラブから仕上げるようにしている。つまり、コンペの1月前にはウッドを練習して満足のいく状態にし、翌週にはロングアイアン、その次の週はミドルアイアン、最後はショートアイアンとアプローチといった具合に仕上げていくのである。ところが2週間を切った時点でウッドすら仕上がっていない状態に、どうしたら良いスコアを出せるか考えていた。

2番アイアンだけでティーショットをしてウッドを使わないことも考えた。しかし、ゴルフのルールでは、ゴルフバッグに入れられるクラブは最大14本

と決まっております、この14本の中に使わないクラブを入れておくということは、スタートの時点で不利な状態に立つことを意味する。

そこで、ドライバーとスプーンの代わりに何か他のクラブを入れることを考えた。一本目はすぐに思いついた。ロブウェッジである。サンドウェッジのロフト角が56度ということもあり、ロフト角が60度のロブウェッジは以前から入れたいと考えていたからである。

もう1本を何にしようかと考えていると、ふとした時に学生時代の記憶が頭をよぎった。

大学生の頃、ゴルフ部の先輩の紹介でゴルフの練習場でアルバイトをしていた。練習場でのアルバイトは、空き時間に無料で練習することができ、仕事の中に多くのゴルファーのスイングを見ることもでき、勉強になった。そのゴルフ練習場には浅尾琢巳プロというプロゴルファーの方がいて、大変お世話になった。技術指導をしてくれたり、ゴルフクラブをくれたり、コースにも連れて行ってくれた。浅尾プロは現在上海在住という事もあり、10年以上ご無沙汰している。

その浅尾プロが「これすごい飛ぶよ。」と見せてくれたクラブが、ドライビングアイアンであった。ドライビングアイアンといえばアイアンの中では一番ロフト角が小さいクラブであるが、浅尾プロはさらにロフト角を小さくして、より飛距離が出るように調整していた。

ドライビングアイアンはゴルフクラブの中でも一番打つのが難しいと言われるクラブである。しかし、私のスイングはアップライトな軌道でリストを使って打つタイプであり、アイアン向きスイングであるため、ドライバーよりは上手く打てる自信があった。

早速インターネットでドライビングアイアンを探してみた。プロでさえウッドを3本も4本も入れるこの時代に新品のドライビングアイアンなどあるはずがないと思いつつも探していると、例の石川プロが使っているという「0番アイアン」なる物が売られていた。0番アイアンといえば、世界屈指の飛

ばし屋として有名だったジョン・デーリーがドライバーの不調に悩んでいた時に使っていたクラブである。果たして「0番アイアン」は常人に使いこなせるのであろうかと疑問に思い、調べてみると最適ヘッドスピードが「46m/s前後」と書いてあったため、即決で購入した。パテントマスターズの一週間前である。



こうしてアイアン以外のクラブセットが出来上がった。見た目の違和感には未だに慣れない。このクラブセットを見たゴルファーであれば、この持ち主はよほど変わった奴だと思いに違いない。しかし、以前習志野カントリークラブのキャディーさんに色々な種類のパターだけを組み合わせさせたクラブセットの人がいたという話を聞いたことがあり、それに比べればまだまだ序の口である。



ちなみに、2番アイアンからアプローチウェッジまでは、浅尾プロから12年程前にいただいたもので、2番アイアンはキャロウェイのビッグバーサ、3番以降はトップライトのGIGAというクラブである。サンドウェッジは学生の頃から練習量が最も多く摩擦が激しいので流石に新しいものと取り替えたが、今でも大切に保管している。

0番アイアンの練習をしてみると、打った感触はアイアンというよりはユーティリティに近く、想像していたものとは少し違っていた。しかし、かなり競技志向なクラブであることは間違いない。特に私が購入したロフト角16度のものにおいて、先述の最適ヘッドスピード46m/sというのは、ドライバーのヘッドスピードではなく、この0番アイアンを振った時のヘッドスピードと考えた方が良いであろう。0番アイアンの弾道はスピン量がかかなり少ないといった印象で、キャリーは2番アイアンとさほど変わらないが、ランが出るため、通常のコンドーションであれば2番アイアンより20ヤード程飛ぶように思う。

アイアンのみのクラブセッティングにしてみると、今までいかにウッ드의練習に時間を費やしていたのかが分かる。ウッドを練習しなくて良い分、アイアンショットやアプローチを多く練習することができ、また、全てのクラブにおいて、ほとんど同じスイング、同じイメージで振ることができるため、スイングが崩れにくいというメリットもある。

そのようなこともあり、結局、パテントマスターズでは、OBを打つこともなく、ボール探しをすることもなく、「76」という出来過ぎのスコアで回ることができた。PA会の団体戦2位にも貢献でき、ゴルフ同好会のメンバーの方々に喜んで頂けたので満足している。

とはいえ、ドライバーの会心の一打というのはゴルフの醍醐味の一つであり、来年のパテントマスターズにはドライバーとスプーンを入れたクラブセットで臨めればと考えている。

そして、またいつか浅尾プロとゴルフをして、成長した姿を見せることができれば最高である。

フランス留学こぼれ話

筒井章子 (無名会)

クリスマス市の街ストラスブール

フランスの北東、ライン川沿いのドイツとの国境に面したストラスブールという街をご存じでしょうか。ここ2年ほど前から有楽町まで出張してクリスマス市を開催しています。伝統的クリスマス市で有名です。ここに欧州議会議会を擁しているフランスにとっては、EUでの存在力を維持するために重要な街の一つです。事実、歴代の大統領を輩出する超エリート校も数年前にパリから移設されたほか、フランス版新幹線TGVがかつてはパリから4時間半かかったところを、現在は2時間20分で移動できるようになっており、フランスを代表する街の1つです。



ストラスブールの教会



街のお祭り

CEIPI

ここに、国際工業所有権大学院 (Centre d'études Internationales de la Propriété Intellectuelle)、通称CEIPI (セイピ) という、45年の歴史を持つストラスブール大学に設置された特別コースがあります。その全日制のコース (特許コース及び商標・意匠コース) に2009年9月中旬～2010年6月中旬の9か月間学びました。生涯初の長期海外生活かつ長年の希望であったフランス留学でしたが、日々の忙しさにかまけ、独学の、それも初級の上の域を出ないフランス語力のまま、長年助言をくださっている欧州特許弁護士のU氏の勧めるこのコースを履修することにしました。ほぼ全講義がフランス語で行われるのですから、無謀の一言につきるでしょう。欧州の実務には必要性もあってもともと興味があったのは確かですが、なぜフランスだったかは、理論的には説明がつかないかもしれません。これを読んでくださる方々はすでにご存じの方もおられるかも知れませんが、若い頃フランス菓子を長年習っていて、どういうわけか知人が少なからずおり、フランスに縁があるとしか言いようがありません。

かつてはEPOとの提携関係もあり、従来から欧州特許弁護士試験の準備コースを提供している学校であり、フランス国内の特許弁理士になるには出なくてはならない学校としてフランスの知的財産法にも明記されている欧州では3大知的財産大学院の1つです。

全日制コースのその年の履修生は、従来数の倍の60名。昨今のフランス国内での知的財産ブームと2008年の経済危機の余波により就職できなかった生徒たちの行先として、また弁護士の職域に自動的に食い込める弁理士になるにはその年までにCEIPIでなくては…などいろいろな思惑があつての大増

員だったようです。フランス人が95%を占め、外国人はほんの数名、アジア人は中国人1名と私の2名でした。全日制のコースのほかに、フランスの特許事務所ないし企業で知的財産業務に従事している人であって、フランス特許もしくは商標・意匠弁理士になるために必要なディプロマを取得する人のための、毎月1週間だけ開催される集中コースも併設されています。

両コースとも欧州特許弁理士試験に必須の欧州特許庁・欧州商標局向けの手続きのほか、フランス国内法についても学ぶカリキュラムで、特に全日制コースは産業界での知的財産の活用事例や欧州各国、日本、中国、韓国を含めたアジアの国々、それに歴史的に関係の深いアフリカの知的財産制度もカバーする幅広い内容ものでした。常勤・常駐の教授は法学系の2名程度で、9割方の講義は国内外の弁理士・弁護士たち実務家が、それぞれ数時間の講義のために訪問して提供されました。Up to dateな情報には触れられるものの、その日の質問をその場で解消することはなかなか厳しく、しかも各法体系ごとに順序よく授業が提供されるわけではなく日々ランダムに各授業が提供されるので、どの仕組みのどの部分を履修しているのかを把握するのに最初の1か月は右往左往する様でした。日本の弁理士受験予備校が各法体系別に幹から枝へ流れ良く説明する講義形式とは全く異なっていて当惑しましたが、フランス人学生にとっても同じことだったようで、なんとフランスの学校教育ではこういった授業体系は珍しくないそうです。最後の卒業試験だけでディプロマが取得できるかの成績が決まり、落第はあるのが当然、それも授業内容がそのまま出るような日本の試験とは違うのだから、そういったことを知るだけで私には1年が必要というありさまでした。

学生生活

60名の同級生のうち30名がバイオ、平均が28歳程度、大学院修士課程を2年経た人、博士を出た人が15名程度いるものの、就職未経験者が9割程度いるという同級生たちでした。フランスは就職にあたって取得したディプロマに対応したポストが空かないと就職できない仕組みであり、コース終了後半年以

上職を得られない同級生（特にバイオ）もおり、とても気の毒な思いでした。自分もかつては似たような状況であったとはいえ、30歳目前でも就職したことがない同級生たちに囲まれるのには少し戸惑いました。若いフランス人学生たちは毎晩のようにバーでいっぱいひっかけて情報交換したりしていたようですし、よく明け方まで飲み明かしていたようです。グループワークの出来が成績に現れるとのことで、いかに優秀な同級生と組むかが問われていて、日本の弁理士とは言っても言葉が不自由な私を含めた外国人は誘われることはほとんどありませんでした。なかなかの秘密主義、ライバル心むき出しで意地悪をしだす女学生もいて、どの国も同じなんだと思う場面もありましたが、日本のマンガを読んで育ってきた世代、日本に興味のある学生も少なからずいて、じっくり交流できる学生達には試験前は情報交換しながら助けてもらったものでした。若い人が話すフランス語はとにかく早く、言い回しも各人が違うため、日常会話には本当に苦労しました。普通の授業も、先生方の講義はテーマは100%わかるけれど、発言は80%しかわからない状態で、配布された紙の資料を自宅で辞書を引きながら後から理解していくという状態でしたから、フランス人の学生と同じようには行きませんでした。朝晩は日本の仕事にも時間を割いていましたから、残念ながら周辺の街を見る時間を作れずに学校と寮の往復の日々でした。

一方で、世界から招へいされた各国特許庁審査官からなる招待生との交流が私の居場所を与えてくれました。CEIPIはフランス特許庁の国際交流にも一役買っており、中国、ブラジル、メキシコ、クロアチア、中央アフリカ、シリアなどから特許コース、商標・意匠コースそれぞれに毎年2名ずつの審査官を受け入れています。みな英語はもちろんでき、フランス語も短期間で勉強してきて授業についていく優秀な人たちでした。ラッキーなことに、偶然にも彼らの滞り施設に併設された学生寮に小さな部屋を借りていたので、毎朝毎晩、一緒に通学することができたのはこの上ない助けになりました。12月から3月いっぱいまでは雪が多く降ったその年のコースは、若くない我々外国人学生にとっては体調を維持

するのも工夫が必要で、お互いに助け合い、励まし合い、グループ学習の課題もみな片言のフランス語でなんとかこなすような、絆の強い仲間に恵まれました。特許コースの招待生達は小テストも期末試験も受けなくて良かったので週末は毎週のように欧州各国に出かけて行くなか、私は自分の勉強と仕事で精いっぱい一人寮に残ることが多かったのですが、商標・意匠コースの招待生達は私と同じようにフランス人と一緒にフランス語で試験を受ける義務があり、協力しあって勉強できたのは思いがけない助けとなりました。神様は見捨てないのだな、と思ったものです。



各国審査官たち

最終試験

9月から2月までは特許のコース、3月から5月までが商標・意匠コースと聞いていたのに、特許の授業は5月まで続き、2つのコースを同時受講するのはフランス人にも厳しかったようで、半数以上の生徒は自分の将来の専門分野となる特許のコースに的を絞っていました。あいにく私には商標・意匠コースに合格する方が可能性があったため、一人で自分のペースで最大限できることをやることしかできず、5月末の試験まで勉強量の多い特許のコースをこなすのに必死で、商標・意匠は市販の本1冊と過去問を約2週間で終えて一か八かで受験するという、なんとも計画性のない受験となってしまいました。それでもフランス国内で初のディプロム取得試験であったため、試験時間に1時間プラスしてくれる猶予が与えられ、なんとか商標・意匠のコースはパスすることができました。

両コースとも筆記の一次試験と口頭の二次試験からなります。試験問題は事例問題が大半で、すべてフランス語での回答です。たとえば特許コースの筆記試験に法律上のセオリー問題は一部ありますが、中心は事例問題に関連した特許権の有効性判断、権利主張に関するものです。フランス語、ときにはドイツ語や英語が混じった引用文献が複数与えられ、対象特許権の有効性判断を事例問題にそって解き、それにそって侵害判断についても回答する、という1日5時間にわたる技術の試験、2日目は3時間にわたる法律事項だけの2つの事例問題、3日目は英語で行われる3時間のアメリカ特許法の試験からなります。日本の弁理士試験のおかげで長時間の試験には抵抗がないものの、同級生たちによれば技術問題は欧州特許弁理士の試験よりも問題がわかりにくい試験でした。語学に苦勞していた私は語彙が追いつかず、技術の理解、問題把握に相当苦勞しました。加えてフランス語で長文を書く練習時間を事前に首尾よく作れなかったため、合格には程遠い状態でした。配点は20点満点中10点を採れば各科目の落第点を免れるというしくみで、この1点の差が小さいようでとても大きく、さらに明確な基準が見えてこない採点でした。さらに技術試験には5、法律試験には2の係数がかけて合否が決められるため、技術試験が平均を超えないと合格できないというこれもまた慣れない採点方式。運悪く技術試験が平均点を超えなかったため、悔いが残る結果となりました。ちなみに合格率は特許も商標・意匠も65%程度でした。

むすび

つらつらと思いつくままに書いてきましたが、この1年の学生生活は、フランス社会を知るいい機会となったのは間違いありません。たとえ縁がある国だったとしても知らないことばかりのフランスの一面を学生生活を通して学べたことは、今から思えばいい経験です。外国生活で知らないうちに忍び寄る思いもよらない負荷に気付かされたり、あくまでも外国人としての立場は変わらないなかで楽ではないこともありましたが、得難い機会を得られたこと、助けてくれた周囲の方々に改めて感謝したいと思います。

自転車の魅力

高田 伸 一（無名会）

はじめに

自転車を趣味にするようになり、かれこれ5年ほど経過します。運動など大の苦手な、全く関心の無かった私が自転車にのめりこんだ経緯と、自分の思う自転車の魅力についてご紹介します。自転車の楽しさを少しでも知ってもらえれば幸いです。

自転車に関心がなかった頃

子供の頃、自転車に乗っていましたか？と聞けば、おそらく大抵の人が「Yes」だろうと思います。しかし、それは自転車が唯一の移動手段だったからという人が多く、自転車が好きだから乗っていた、という人は少ないかもしれません。私も子供の頃に自転車が好きだったという記憶はそれほどなく、「自転車だと坂がきついし、早く大人になって車やバイクに乗り、楽したいな」と思っていたことを思い出します。高校生までは仕方なく自転車に乗っていましたが、大学生になって原付に乗り始めると、「なんて便利な乗り物だ」と感心し、自転車には全然乗らなくなりました。さらに、会社員になってからは原付にも乗らず、ほとんど電車オンリーとなりました。

きっかけ

30代間近になった頃のことです。俄に自転車に興味を持ちはじめた友人と西荻窪の焼き鳥屋で飲んだ時に「お前もいい折り畳み自転車買って、遠くまで走ろうぜ」と勧められました。最初は話半分に聞いていましたが、突然ピーンときて、1週間後には本格的な折り畳み自転車を買っていました。

なぜ「突然ピーン」と来たのか。それは、友人の達者な弁舌もさることながら、心の奥底にしまわれていた、子供の頃自転車で遊んだ楽しい記憶が急に呼び戻されたのではないかと考えています。子供の頃は仕方なく乗っていた面もありましたが、よくよく思い出してみると、楽しいことも色々あったな

あと気付きました。もちろん、今の自転車の楽しみ方と子供の頃のそれとは全く違いますが、原点はやはり子供の頃の記憶なんだろうな、と思っています。

現在

折り畳み自転車を手に入れて以来、自転車にずっとのめりこみ続け、遠出したり自転車をいじったりする日々が続きました。昨年はついに2台目としてロードバイクを購入しました。ロードバイクは舗装路の走行に特化した自転車で、自転車レースにも使用される車種です。折り畳み自転車もなかなか良い走りをするものの、ロードバイクは別物でした。ロードバイクを買ってからは、「スポーツ」として自転車を楽しむようになり、週末は一人で、時には仲間と、多摩川・荒川・入間川などの川沿いや江ノ島などの海沿いを走ったり、地図で峠を見つけては登りに行くといった自転車ライフをエンジョイしています。ただし、妻の理解が得られるよう、事前に、あるいは帰宅後の家族サービスも怠らないことはいまでもありません。

また、雨の日以外は片道16キロを自転車通勤するようになりました。片道16キロというと驚く人が多いのですが、スポーツタイプの自転車だと慣れればさほど遠くありません。



オススメの藤沢・大和自転車道。走りやすい道が江ノ島まで続く

自転車の魅力とは

自身の体験を書き連ねましたが、自転車の面白さは一体どこにあるのか、せっかくの機会なので考えてみました。自分なりに整理すると、自転車の魅力には次のような要素があり、これらが複合的に重なっていると思われます。一つ一つは他の趣味でも置き換えられるのですが、これらの要素が絡み合うことで、他の趣味では得られない自転車の独特の魅力となって映ってくるのです。

① スピード感

まずもって感じるのはこれです。本格的なスポーツタイプの自転車、とりわけロードバイクは、ママチャリと比較して重量もママチャリの半分又はそれ以下で、前傾姿勢のため空気抵抗も少ないので、速さの次元が違います。ペダルを回す度にサァッと景色が流れていく感覚は、爽快の一言に尽きます。

② 心身の健康

自転車は膝や腰などへの負担が少なく、長時間の有酸素運動を行いやすいという利点があります。そのため自然と体力がつき、楽に脂肪燃焼できます。自分自身、自転車通勤等で高校時代の体型に戻ることができ、風邪をほとんど引かなくなり、健康にも大いに自信ができました。さらにストレス発散効果があり、仕事で精神的に参っても、自転車に乗れば前向きな気持ちを取り戻せるのも魅力です。

③ 小さな旅行感覚

東京にいても、自転車でちょっと足を伸ばせば自然豊かな景色に出会えます。休日に半日ほど時間を取れば、ちょっとした旅気分を味わうことができます。高尾山付近に行ったときには、野生のサルが道路脇を走っているのを見かけました（さすがに驚きましたが）。また、輪行袋という専用の袋があれば、タイヤを外すなり、折畳み自転車なら折畳むなりして自転車を電車に乗せることもできるので、走りすぎて疲れた時も安心です。

一度自転車で訪れた場所には、自分の足で行くためか、不思議と「自分の街」という感じがしてきます。これまで地元広島以外に愛着を感じなかった私ですが、あちこち走り回るにつれ、最近では東京にも愛着が湧いてくるようになりました。

④ メカを操る喜び

自転車の構造は突き詰めれば奥深いのですが、基本的にはそれほど複雑ではなく、見れば大体の構造

が分かります。そのため、整備や、部品交換による改造を自ら行うことも可能です。整備や改造を自分で行えば、自転車がより一層自分のものとなる感覚があり、自転車というメカを自在に操っているという専門的（又はある種のマニア的）な楽しさが味わえます。ただし、改造費用が積みもり積もって天文学的数字になる場合もありますので、注意が必要です…。

⑤ 仲間作り

自転車仲間と一緒に走るのも、いうまでもなく楽しいことです。しっかり走った後は、高カロリーなものを気にせず食べながら自転車談義できるのも、また魅力の一つです。

⑥ 一人の時間作り

結局のところ自転車は一人で乗るものなので、一人の時間が増えてしまうことは否めません。しかし、自分だけの時間が欲しい、という人にはうってつけです。走っている間は携帯電話からも解放されます（あるいは気付かないふりができます）し、個人的には満喫しています。

荒川沿いなどで一人無心にペダルを回していると、普段の世界とは別の世界に行ってしまったような、不思議な感じに襲われる時があります。これも一人ならではの感覚です。

おわりに

自転車の魅力を少しでも感じて頂けましたでしょうか。もし①～⑥のいずれにも興味があるという人は、きっと自転車に向いています。是非、自転車専門店へ一度足をお運びください（冗談）。また、自転車が好きな方、お声がけください。一緒に走りましょう！



いつもこんな感じで走ってます

私の好きなもの

篠原 淳 司 (無名会)

<はじめに>

今回、「会員だより」に投稿させていただく機会を得ました。このような話をいただけるなんて大変ありがたいことです。少し気後れもしましたが、引き受けさせていただくことにしました。とはいえ、その時点では何を書いたら良いのか頭にはまったくアイデアは無く。でも〆切までは、まだ少し時間もあるしなんとかなるだろうくらいに考えていました。

時間がたつのは、早いものです。あれよあれよと月日は流れ、あっという間に〆切前日、今日まで俺は何をやっていたんだなんて思っても後の祭りです。本業そっちのけで、この原稿を書いております。

とはいっても、本当に何を書いて良いのかわからない。なんとか思いつくのは、この間、奥さんと一緒に帰った僕の実家の話くらいです(ちなみに福岡県出身です)。だけど日弁会報に、「帰省してきました」はさすがに気が引けます。悩んでいると、ふと昔、カメラ雑誌のQ&Aコーナーに次のような質問が投稿されていたことを思い出しました。

質問:「この度、思い切って一眼レフカメラを購入しました。だけど、何を撮っていいかわかりません。何を撮ったらいいのでしょうか?それに何を撮ってもうまく撮れません。」

おかしなことを言う人がいるものだと思います。ですが、そのカメラ雑誌の回答者によると、このような質問は意外に多いとのこと。そして、回答は次のようなものでした。

回答:「質問者様の好きなものを撮られてみてはどうでしょうか。車が好きなら車を撮ってみるとか、料理が好きなら材料でも料理道具でもいいですし。自分が好きなものを撮っていると、どうすればよく写るか考えるようになるし、だんだんうまく撮れるようになりますよ。」(確か、こういう感じだったと思います。)

そういうわけで、何を書いたら良いかわからない

私は、「私の好きなもの」について書いてみることにしました(ちょっと強引ですかね)。

<カメラ・写真>

実は私、大のカメラ好きです。写真を撮るのも大好きで、一時は毎月何本もフィルムを消費する生活をしていました。特に、ネガフィルムが大好きで(お気に入りにはAGFA、DNP)、家族とか友人とか、街並みだの食べた物だのを、オリンパスの中古の一眼レフ(OM4ti)で、パチリパチリと写しては現像の毎日でした。フィルムで撮ると、独特の色や雰囲気が出て、なんとも良い写真が撮れるような気がします(あくまで気がするだけです(笑))。最近、今年始めた新たな趣味「自転車」にすっかり夢中になってしまったので、愛用のカメラ達は防湿庫の中で休憩中です。いつかまた引っ張り出して、お散歩カメラを楽しみたいと思っています。

<自転車>

最近すっかりはまっているのは自転車です。今年(2012年)、川崎市から世田谷区に引っ越したのですが、せっかくだから東京中あちこち自転車で走りまわりたいと思い、ロードバイクを7月に購入しました。買ったのはKuota(クォータ)というイタリアのメーカーの初心者用モデルです。最初は、あの独特の緑色のフレームがカッコいいと思い(チェレステカラーというらしいです)、ビアンキのクロスバイクを買おうかと思っていたのですが、自転車屋さんに何度も足を運ぶうちに、いつのまにかロードバイクを購入していました。ドロップハンドルの自転車なんて、中学の時に父親に買ってもらったロードマン以来です。

私の購入したKuotaは白いアルミのフレームに、赤とグレーで少し模様が入っていてとてもカッコ良く気に入っています。23cという細いタイヤがフ

いていて、ちょっと頑張っでペダルを踏むと時速50kmなんてスピードが出ちゃいます。もしかして、移動手段としても原付バイクよりすぐれているのでは、なんて大ハマリ中です。

<ダイエット・トレーニング>

自転車を買ったら、ダイエットというかトレーニングを一生懸命やるようになってしまいました。毎朝早起きして出社前に1時間、心拍数に注意しながら汗を流しています。これには我ながら驚きです。実はロードバイク購入にあたっては、「購入しても全然乗らなくて無駄遣いになるかも」という心配もありました。実際、雑誌やインターネットを参考にいろいろ勉強したのですが、「すぐに上級モデルが欲しくなるから最初から良いのを買った方が良いよ」という意見と、「もしかしたら飽きて全然乗らなくなる可能性もあるんだし、最初は安価なモデルを買って様子を見ては」という意見がありました。自分は、熱しやすく冷めやすい性質なのはわかっているんで、やっぱりと思ひ後者の意見を参考に比較的安価な初心者用モデルを購入したわけなんですけど、こんなに一生懸命乗るのだったらもうちょっとだけ良いモデルにしておいてもよかったなあなんて思うくらいです。(もっとも今は、もう少し熱中できたら、ステップアップしてもう少し良いモデルを購入しようなんて目論みつつ楽しんでいきます(笑))。

ダイエット効果ですが、おかげ様で体重は2か月で3kg減り、体脂肪も14%台まで落ちて来ました(それまでは18%台)。春の健康診断で、腹囲85cmの壁をとうとう越えてしまっていたのですが、なんとかセーフゾーンまで戻ってきました。来年の健康診断までがんばって続けていきたいです。

<晩酌>

私は、お酒を飲みます。しかも、かなり大好きです。世の中には「アルコールは一滴も」なんて方が結構いらっちゃって、私の義理の母なんかもそうですが、そういう方にお会いすると本気で同情してしまいます(まったく大きなお世話です)。

そういう酒好きの私ですから、当然のように毎晩晩酌をしています。まず第三のビールの500ml缶を一本空けて(麦とホップがお気に入りです)、焼

酎かウイスキーを一杯、ロックかソーダ割りで楽しむというのが最近のお決まりのコースです。

晩酌をする日は(まあ、毎日ですが…)、奥さんがおつまみを一品用意してくれます。アボカドを使ったサラダとか、焼きナスとか。まずそれをいただいて、メインのご飯を食べつつ飲みすぎない量をいただいたら、みそ汁でしめるのが毎晩の楽しみです。家飲み最高です。

<ビール>

酒好きの私ですが、数あるお酒の中でやっぱりビールが一番好きです。ビールは、ラガービールもおいしいし、ギネスもうまいですが、でもなんといつてもバイツェンビア(ドイツの白ビール)が最高です。私は、このお仕事をさせていただく前は、自動車関連のエンジニアをしていました。その当時ドイツにはかなりお世話になり、一時は、シュツットガルトという街で開発のお仕事もさせていただきました。その時に本場のビールの味を教えてもらって以来のビール好きです。またいつか本場のバイツェンビアを飲みたいなあ、なんていつも思っています。

<音楽・オーディオ>

昔から機械好きの私ですが、アンプとかスピーカーとか、そういったオーディオ製品も大好きです。昨年は、DENONのレコードプレーヤーを復活させました。と言っても、福岡の実家に置いてあったのをこっちに持ってきただけです。私が第一志望の高校に合格したときに父親がお祝いを買ってくれた27年物のプレーヤーで、長年放置してあったにも関わらず、ちゃんときれいな音で鳴ってくれます。

東京には、中古のレコードショップがたくさんあって、御茶ノ水に行けばクラシック、下北沢ならビートルズ等と、色んなジャンルのレコードが数百円〜二、三千円も出すと買ってしまうので困ってしまいます。なんて素晴らしい世の中なんだろう(笑)。

<最後に>

かなりとりとめの無い内容になってしまいました。でも「好きなもの作戦」が功を奏しなんとかここまで書くことができました。最後までお付き合いくださいましてありがとうございます。

三重、静岡巡り

工藤 貴宏 (無名会)

はじめに

今年の8月上旬に学生時代の同期である友人夫婦の企画のもと、2泊3日で三重県と静岡県へ旅行に行き参りました。

今回「会員便り」に掲載させていただく機会がございましたので、その旅行について振り返りたいと思います。

初日

前日に千葉の友人夫婦宅で前泊し、翌日午前3時に三重県へ向けて出発。道中、山梨にて学生時代にお世話になった先輩と合流し、午後3時半頃に1泊目の宿に到着。ここで、同じく学生時代にお世話になった四日市にお住まいの後輩と合流し、今回のメンバーがそろいました。

チェックイン後夕食までの間、この旅行の目的地の一つである伊勢神宮へ参拝に行き参りました。ただ、夕方に差し掛かっていることもあり、まずは豊受大神宮(外宮)をお参りして来ました。

外宮で祀られている豊受大神は、天照大神のお食事を司る神であり、衣食住をはじめとするあらゆる産業の守り神として知られていますが、山田原の鎮守の神である大土乃御祖神や、鎌倉時代の元寇の時に神風を起こして日本をお守りした神である風の神も外宮で祀られています。



大土乃御祖神を祀る土宮

伊勢神宮へのお参りは初めてでしたが、敷地内は高い木々に囲まれ、とても過ごしやすく、時の流れが止まっているかのように静かな雰囲気でした。翌日向かう内宮にも期待しつつ、外宮の参拝を終えました。

2日目

2日目は朝5時に起床。伊勢の名所の一つである夫婦岩を朝日と共に拝むということで、寝ぼけつつも宿から出発。「夫婦岩」といえばこの宿というほどの評判の宿から徒歩5分の場所に二見興玉神社があり、そこから夫婦岩を一望できます。

残念ながらこの日の朝は薄雲に覆われ、朝日と共に拝むことはできませんでしたが、日の出の頃の夫婦岩を眺めることができたので、目覚めの良い朝を迎えるには十分でした。



日の出時の夫婦岩

2日目は、内宮参拝、五日市に新築を構えた後輩宅への訪問、静岡へ移動とかなりのハードスケジュールでした。

まずは、前日の外宮参拝に続き、皇大神宮(内宮)をお参りして来ました。

内宮では、言わずと知れた天照大神が祀られており、2000年の時を超えて古代のたたずまいが伝えられています。

敷地内はとにかく広大で、外宮と同じく高い木々に囲まれ、多数の参拝者で賑わっていました。

宇治橋から入り、第一鳥居、第二鳥居を通過し、正宮に到着。正宮を参拝後、別宮である荒祭宮を参拝。とても有意義な時間を過ごせました。

また、平成25年は20年に一度の式年遷宮ということで、正宮の傍の土地には、新しい社殿が建てられている様子でした。

参拝後は内宮と繋がる思い出横丁に足を運び小休止。赤福本店でお茶をいただき、伊勢神宮を後にしました。

伊勢神宮をお昼ごろに発ち、2時間ほどかけてこの旅行の2番目の目的地である四日市に新居を構える後輩宅を訪問。ご迷惑にならないようにお邪魔し、メンバーそれぞれの近況や昔話をして新築をお祝いしました。後輩夫婦のお子さんと友人夫婦のお子さんは初対面にもかかわらず仲よく遊んでいたのを見て心が和みました。

四日市で後輩と、ご実家が大阪の先輩と別れ、ここからは私と友人夫婦で2日目の宿のある静岡の千頭温泉に向かいました。道中、道路が冠水するほどの豪雨に遭い、視界が確保できないほど危険な状態での運転でしたが、レンタカーのフロントガラスの撥水の良さに助けられ、事なきを得ました。

夕食を新東名のサービスエリアでとり、夜9時ごろに宿に到着しました。こちらの宿も千頭温泉では評判の宿でして、窓から見える大井川の景色は一見の価値はあるかと思えます。

3日目

3日目はこの旅行の最後の目的地である大井川鉄道を散策。友人夫婦の3歳のご長男は電車が好きらしく、既に興奮状態でした。それもそのはずで、大井川鉄道の終着駅である千頭駅にはSL資料館があり、SLと他の車両との連結作業を間近で見られるなど、大井川鉄道は鉄道ファンの心を釘づけにするスポットとして知られています。普段通勤でしか電車を使わない私も、初めて見たSLと、SLを転写台で方向転換する作業風景を見て、言葉にならない

感動と興奮を覚えました。

さて、千頭駅で乗車券を購入し、千頭駅から井川駅までを結ぶ南アルプスアプトラインに乗車しました。この路線の見所は、奥大井の渓谷とアプト式機関車で渓谷内の勾配を登っていくところですが、時間の都合もあり、アプト式機関車で途中駅まで行き、折り返して千頭駅に戻るというルートを取りました。

千頭駅からアプト式機関車に連結する「アプトいちしろ駅」まではディーゼル機関車で運行しています。この日は天気もよく、途中大井川を横切りますが、電車から眺める大井川の景色は絶景でした。また、電車もゆっくり走行していたので、渓谷内の景色をゆっくりと眺めることができました。

その後、「アプトいちしろ駅」で電車の後部にアプト式電気機関車を連結させる作業が始まります。アプト式とは、線路の真ん中に施設された「ラックレール」という歯形レールを使って急な勾配を登り降りする日本で唯一の方式で、実際に連結する作業を見ることができました。

アプト式機関車と接続後、一区間である長島ダムまでの間にある90/10,000という急勾配を走行していきます。走行中はそこまでの勾配を感じませんでしたが、電車から少し身を乗り出して景色を眺めると、確かに急な勾配を走行していることがわかります。

長島ダムで降車し、折り返しの電車に乗車し、大井川渓谷の景色を再度満喫しながら千頭駅に戻りました。

大井川鉄道を後にし、新東名を利用して千葉へ帰るルートを取りましたが、途中事故渋滞で3時間ほどはまりましたが、無事に帰って旅行を終えることができました。

終わりに

今回のメンバーである友人夫婦とは学生時代からの長いつきあいであり、いろいろな企画を立てて交流を深めております。今回の旅行を企画していただいたことにこの場を借りて感謝を申し上げますと共に、また機会がありましたら、このような場で掲載できればと考えている次第です。